

最近の農政の動き

～ 食料安全保障の実現に向けて ～

令和8年6月23日
農林水産省九州農政局（鹿児島県拠点）
地方参事官 窪山富士男

ちょっと自己紹介！？



昭和43年3月 始良市（旧始良町）生まれ 58歳

昭和61年3月 鹿児島県立加治木高等学校卒業

昭和61年4月 農林水産省鹿児島食糧事務所入所

平成10年4月 農林水産省本省へ異動
(米政策、担い手政策、6次産業化、収入保険、デジタル政策など)

令和6年4月 農林水産省九州農政局地方参事官
(鹿児島県担当) として着任

(趣味) Jazz Vocal、野菜作り など



折角なので、私も、畑を造り、 野菜を育ててみることにしました！



きっかけは、

- ・ 農場と食卓を近づけたい
- ・ 農業者の気持ちを知りたい
- ・ 環境負荷低減も知りたい



野菜を育ててみて判ったこと！

曲がった「きゅうり」



水分や肥料が足りないだけ
十分に与えれば、
まっすぐになる

ひび割れが入った「トマト」

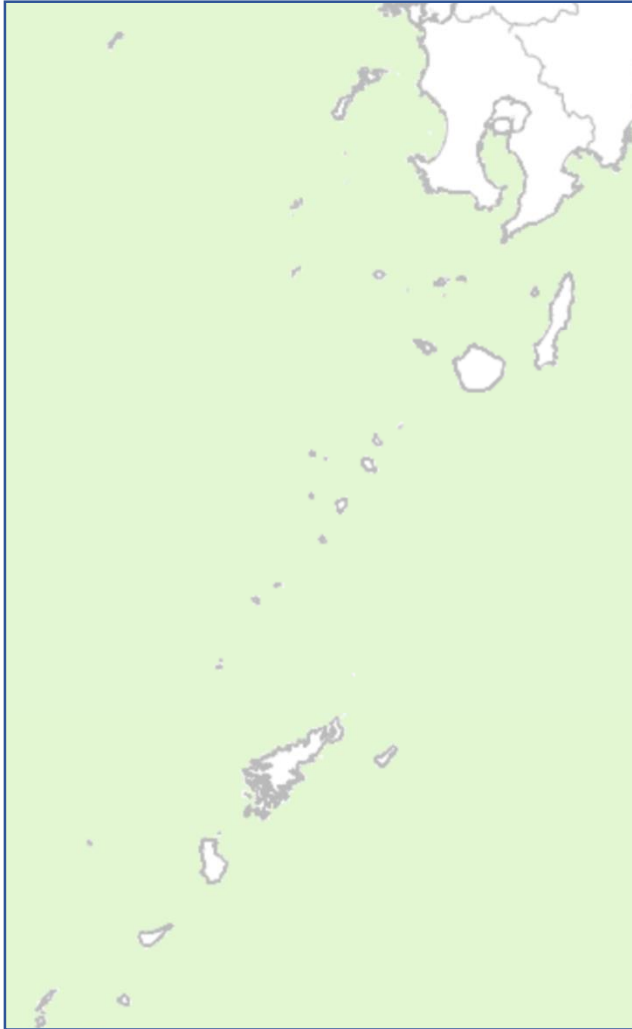


水分や温度の変化
調節すれば、
ひび割れは出なくなる

自分で農作物を栽培することで、行動に変化！

- ・ 野菜などの成長が気になる。畑が空いたら、何か植えたい
- ・ 食べ物を、これまでよりも大切に（食品ロスの削減）
- ・ 店頭で並んでいる野菜などを見て、栽培方法が気になる

鹿児島県の農業をちょっと紹介します！



- 鹿児島県は、九州の南に位置し、東西約270km、南北約600km。
- 薩摩、大隅の二つの半島からなる県本土と、甌島、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島など1,200有余の島々から成る県。
- 温暖な気候や広大な畑地などの特性を生かし、畜産をはじめ、茶、さつまいも、野菜、果樹、米など、様々な食材の生産が盛ん。

鹿児島県の農業は、全国でも高い位置！

- ・ 農業産出額は、全国 2 位 (前年に比べて、251億円増加)
- ・ 生産農業所得は、全国 4 位 (前年に比べて、89億円増加)

【農業産出額】

1位	北海道	1兆4,817億円
2位	鹿児島県	5,689億円
3位	茨城県	5,494億円
4位	千葉県	4,533億円
5位	青森県	4,119億円
6位	熊本県	4,116億円
7位	宮崎県	3,725億円
8位	愛知県	3,551億円
9位	栃木県	3,448億円
10位	岩手県	3,269億円

【生産農業所得】

1位	北海道	6,242億円
2位	茨城県	2,002億円
3位	熊本県	1,744億円
4位	鹿児島県	1,623億円
5位	千葉県	1,537億円
6位	青森県	1,515億円
7位	愛知県	1,347億円
8位	栃木県	1,323億円
9位	長野県	1,316億円
10位	宮崎県	1,235億円

全国で上位の鹿児島県の農畜産物

農業産出額 全国 2位
5,689億円 (1位 北海道)



肉用牛 全国 2位
1,192億円 (1位 北海道)



豚 全国 1位
912億円 (2位 北海道)



茶 (生葉) 全国 1位
157億円 (2位 静岡県)



ブロイラー 全国 1位
1,054億円 (2位 宮崎県)



鶏卵 全国 4位
332億円 (1位 千葉県)



ばれいしょ 全国 3位
129億円 (1位 北海道)



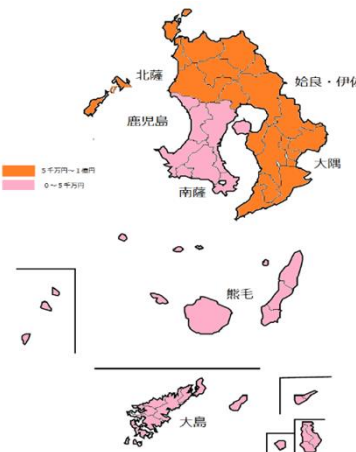
さとうきび 全国 2位
137億円 (1位 沖縄県)



茶 (荒茶) 全国 2位
84億円 (1位 静岡県)



かんしょ 全国 2位
223億円 (1位 茨城県)



資料：「令和6年生産農業所得統計」

鹿児島県の荒茶の生産量（8,440 t）は、全国1位に！ （時代の変化で、お茶の呑み方も多様化）

仏様、お客様、3時のお茶など



お店で買って、自分で呑むなど



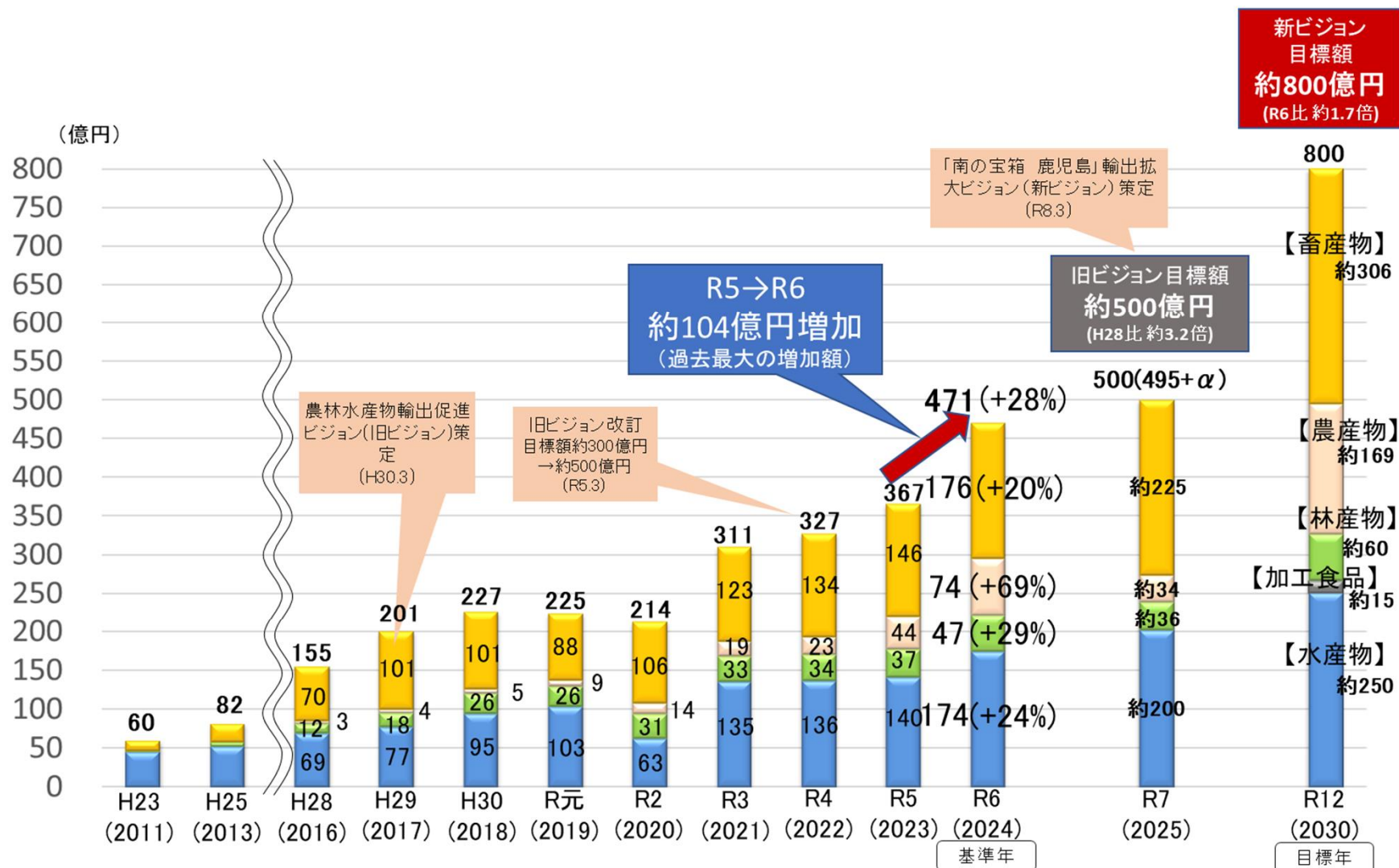
緑茶・ほうじ茶飲料のフリーズドライ
（左：南九州市 右：鹿児島市）



◎ お茶っ葉には、ビタミンあり。食べてもOK！

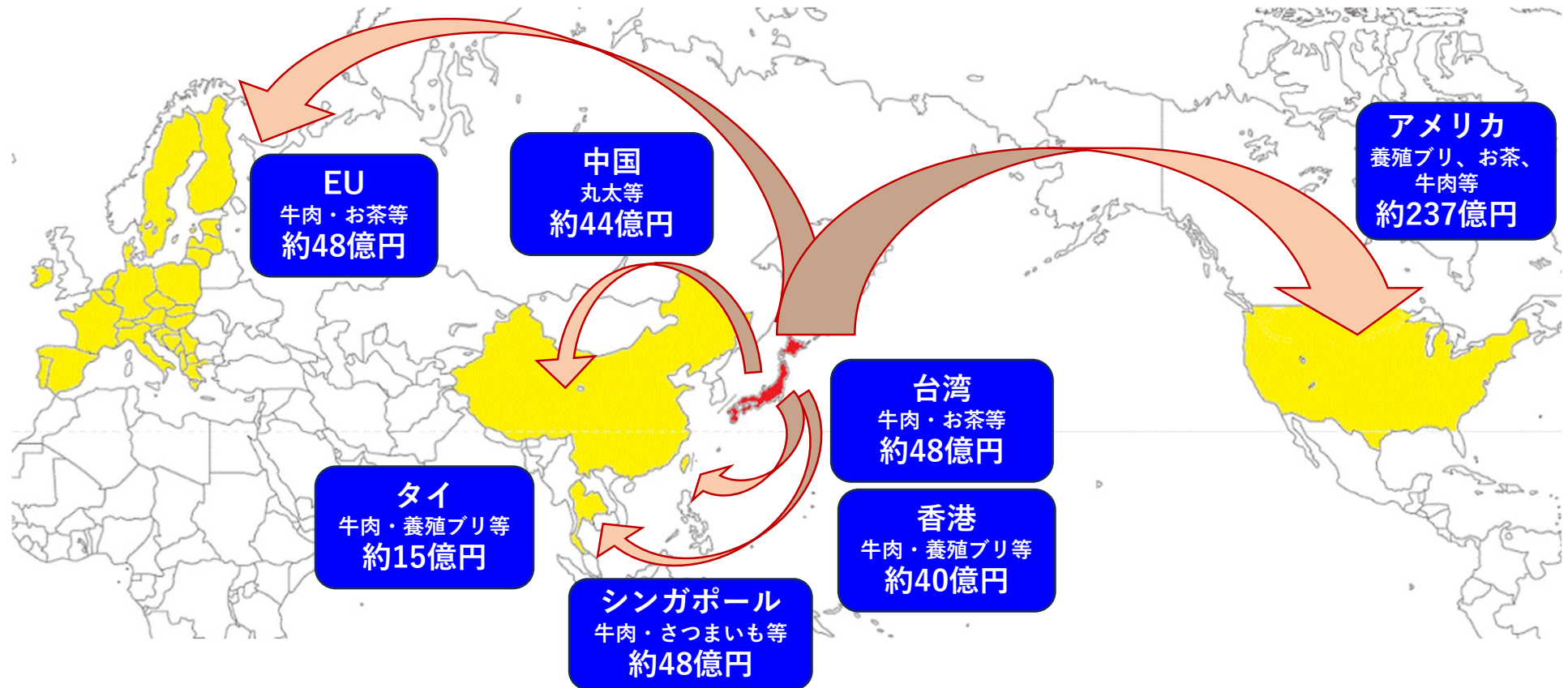
鹿児島県産農林水産物の輸出額は、約471億円！

- 令和6年度の県産農林水産物の輸出額は、前年度比28%増



※輸出額については億円単位で表示。前年度比は百万円単位で計算したものを表示。
※ラウンドの関係で合計が合わないことがある。

鹿児島県産農林水産物の主な輸出先は、こんな感じ



牛肉 (約173億円)



養殖ブリ (約149億円)



お茶 (約63億円)



丸太 (約47億円)

資料：令和6年度農林水産物の輸出額（鹿児島県）

「かごしまブランド」って 知ってます!?

県内の農畜産物で、28品目
(令和7年11月現在)



あお	南国の広い青空
みどり	大自然のもたらす恵み
オレンジ	人の情熱
あか	鹿児島の特徴としての太陽

「かごしまブランド」は、こんな感じ

ばれいしょ そらまめ 実えんどう



紅甘夏 きんかん マンゴー 大将季



かごしま茶 鹿児島黒牛 かごしま黒豚 かごしま地鶏



ごぼう かごしま茶 米



鹿児島黒牛 かごしま黒豚 かごしま地鶏



いちご こまつな マンゴー 桜島小みかん



大将季 かごしま茶 鹿児島黒牛 かごしま黒豚 かごしま地鶏



ピーマン きゅうり ばれいしょ



ごぼう スプレーギク マンゴー パッションフルーツ



かごしま茶 鹿児島黒牛 かごしま黒豚 かごしま地鶏



かぼちゃ さつまいも



オクラ らっきょう たんかん きんかん マンゴー



かごしま茶 鹿児島黒牛 かごしま黒豚 かごしま地鶏 米



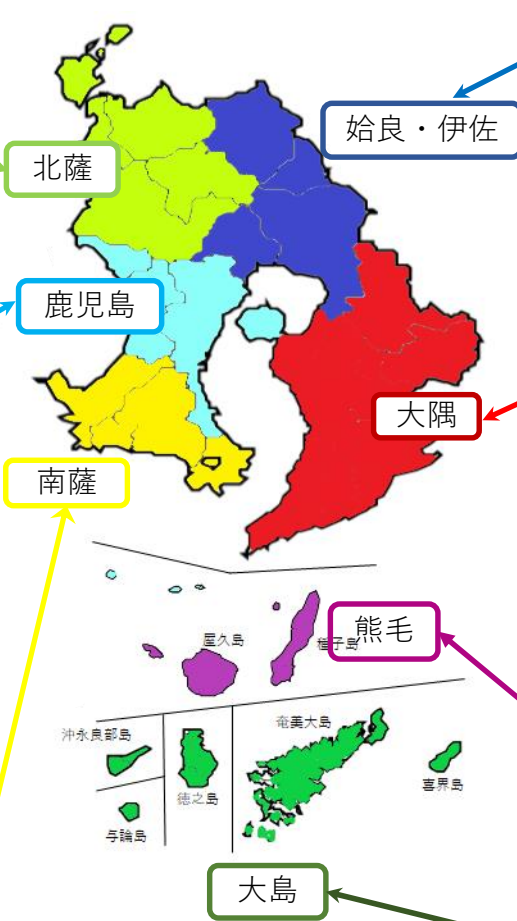
レザーリーフファン マンゴー ばれいしょ



たんかん ブロccoliりー かごしま茶 鹿児島黒牛



ばれいしょ ユリ パッションフルーツ 鹿児島黒牛

「GI」って知ってます!?

地域の特徴を生かし、伝統的な生産方法で作られている
特産品の名称を知的財産として登録し、ブランドとして保護

鹿児島県の農林水産物・加工品の登録は、9品目（令和7年11月現在）



大きな日輪を背負った富士山と水面をモチーフに、日本国旗の日輪の色である赤や伝統・格式を感じる金色を使用し、日本らしさを表現しています。

鹿児島県の農林水産物等の「GI」登録商品は、こんな感じ

鹿児島の壺造り黒酢

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県霧島市福山町及び隼人町

登録団体：鹿児島県天然つぼくり米酢協議会

農林水産大臣登録第7号

桜島小みかん

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島市桜島山町、桜島白茶町、桜島二丁目、桜島心斎町、桜島西浜町、桜島藤野町、桜島芝町、桜島長生町、長島小池町、長島赤水町、新島町
(平成16年10月25日付農水省告示第170号の農産物としての鹿児島県産鹿児島小みかん)

登録団体：グリーン鹿児島農業協同組合

農林水産大臣登録第46号

辺塚だいたい

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県肝属郡肝付町、南大隅町

登録団体：鹿児島きもつき農業協同組合

農林水産大臣登録第57号

鹿児島黒牛

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県内

登録団体：鹿児島県肉用牛振興協議会

農林水産大臣登録第59号

えらぶゆり

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県大島郡和泊町及び知名町

登録団体：(1) 沖永良部花き専門農業協同組合
(2) あまみ農業協同組合

農林水産大臣登録第102号

種子島安納いも

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県西之表市、熊毛郡種子島町及び南種子町

登録団体：一般社団法人安納いもブランド推進本部

農林水産大臣登録第115号

種子島レザーリーフファン

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県西之表市、熊毛郡種子島町及び南種子町

登録団体：種子屋久農業協同組合

農林水産大臣登録第148号

枕崎鯉節

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県枕崎市

登録団体：枕崎水産加工業協同組合

農林水産大臣登録第168号

指宿鯉節

日本地理的表示 GI

生産地：鹿児島県指宿市

登録団体：山川水産加工業協同組合

農林水産大臣登録第169号

お酒の地理的表示（GI）もあります！

（かごしまの芋焼酎は「薩摩」として登録）



【主な特徴】

- ・ 鹿児島県（奄美市及び大島郡を除く）で収穫したさつまいものみを用いたもの
- ・ こうじに、米又は鹿児島県で収穫したさつまいもから製造されたもののみを用いたもの
- ・ 鹿児島県内で採水した水のみを用いたもの など



鹿児島県の主な郷土料理!?



雑煮



煮しめ



鶏飯



がね



豚汁



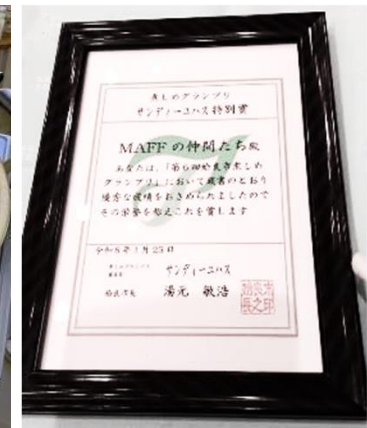
つけあげ

オーガニックビレッジ宣言をしている始良市の「煮しめグランプリ」に参加してきました！

- オーガニックビレッジ宣言をしている始良市が、令和8年1月24日（土）から25日（日）にかけて、「第6回始良市煮しめグランプリ」を開催。鹿児島県拠点から「MAFFの仲間たち」として参加。
- 審査では、環境への配慮のこだわりが認められ、**審査員特別賞を受賞**しました。

【有機・無添加・地産地消にこだわった環境にやさしい食材を使用】

- ぶつ切地鶏（始良市産）
- 有機にんじん（始良市産）
- 有機だいこん（始良市産）
- 有機ごぼう（始良市産）
- 有機さといも（始良市産）
- 有機菜花（始良市産）
- 有機こんにゃく
- 有機厚揚げ
- 有機切干大根
- 原木乾しいたけ
- 昆布（利尻産）
- 島ザラメ（喜界島産）
- 天然塩
- 黒酒
- 有機醤油
- 有機本格みりん





げたんは



ふくれ菓子



あくまき (ちまき)



かるかん



白熊

「あくまき」を作ってみました！



- 3日間くらい水につけて成形した「竹の皮」に、
- 「灰汁」に一晩つけこんだ「もち米」を包んで、
- 「竹の皮のひも」で結び
- 大きな鍋に入れる

- 取り上げて、冷まして、出来上がり！

- 「灰汁と水」を入れて、煮こぼさないように、水を足しながら、3時間半くらい煮る

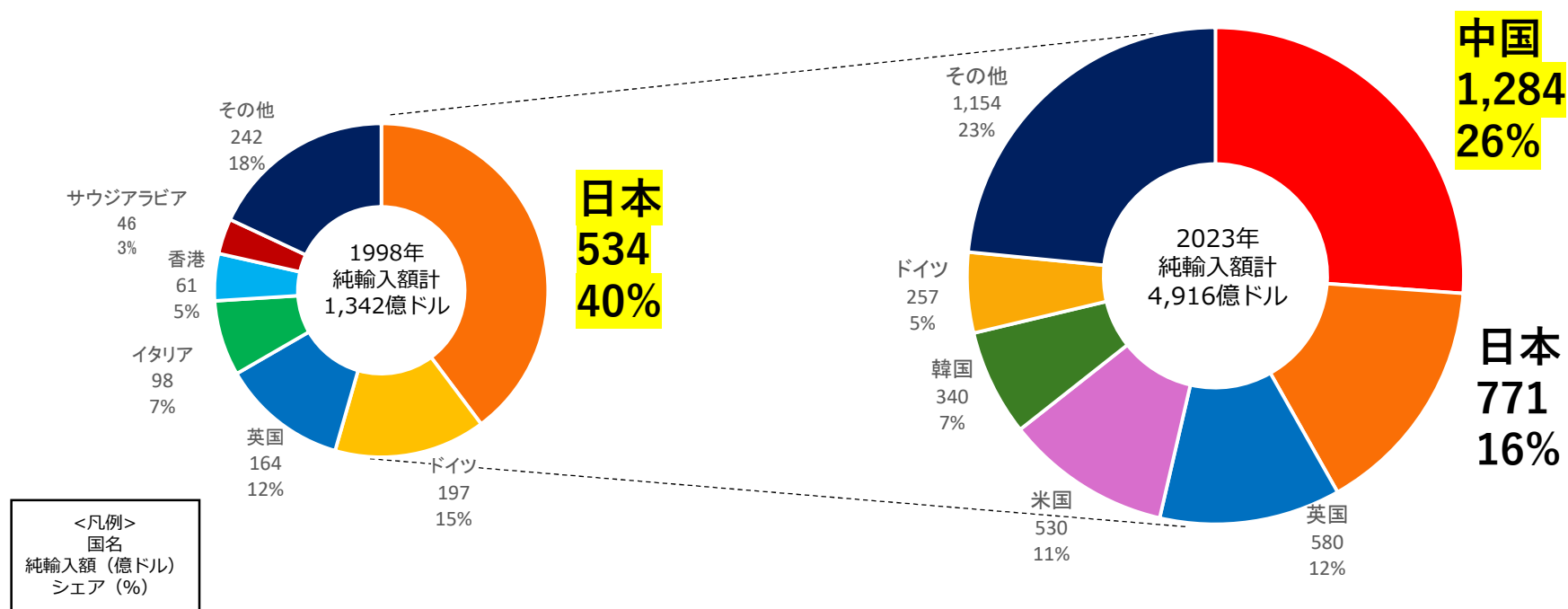
社会情勢、農業情勢の変化を踏まえ、 「食料・農業・農村基本法」を改正

- 農政の憲法である「食料・農業・農村基本法」は、平成11年に制定（以前は昭和36年制定の「農業基本法」）
- 今回の改正で、新たに、
「食料安全保障の確保」
「環境と調和のとれた食料システムの確立」
が政策の柱に

先々、日本の食料の調達に不安！

- ・ 1998年（平成10年）当時、日本は世界1位の農林水産物の純輸入国。
- ・ 現在は、中国が最大の純輸入国となっている。この中で、買付をめぐる競争が激化し、「買い負け」に関するリスクが高まっている。

農林水産物純輸入額の国別割合

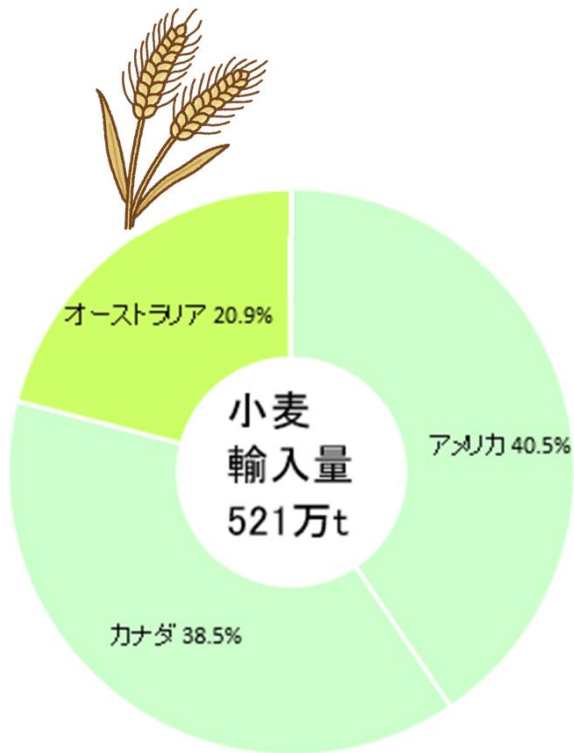


資料：「Global Trade Atlas」を基に農林水産省作成
 注：経済規模とデータ制約を考慮して対象とした41カ国のうち、純輸入額（輸入額-輸出額）がプラスとなった国の純輸入額から作成。

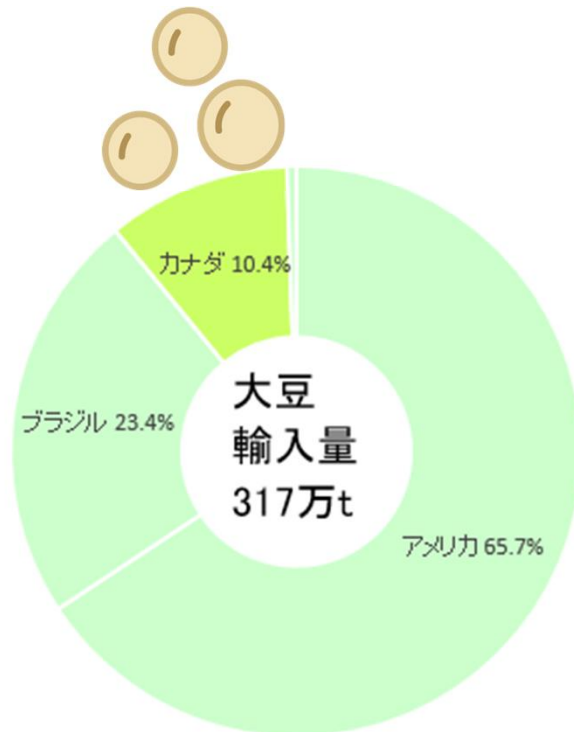
穀物の輸入依存度が高いです！

消費量約3,300万tのうち約2,300万t（約7割）を輸入
国内生産の増大が必要！

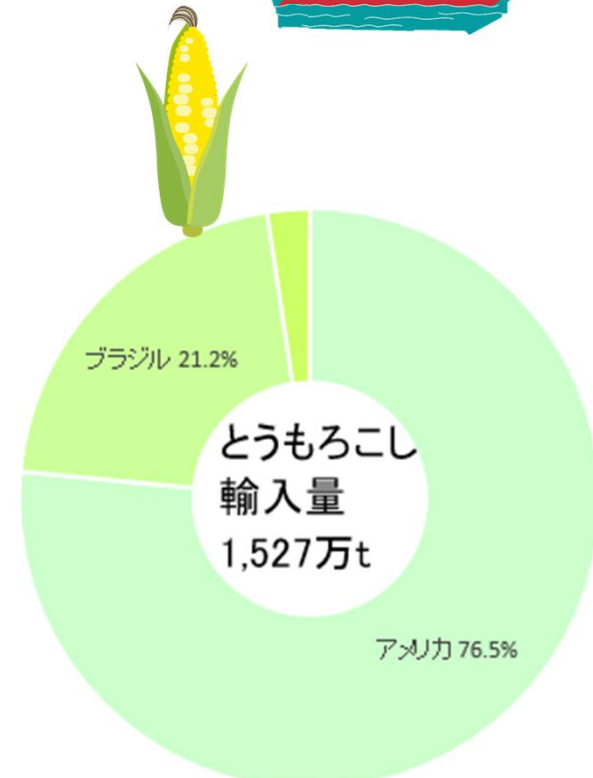
二酸化炭素



資料：令和6年



資料：令和6年



資料：令和6年

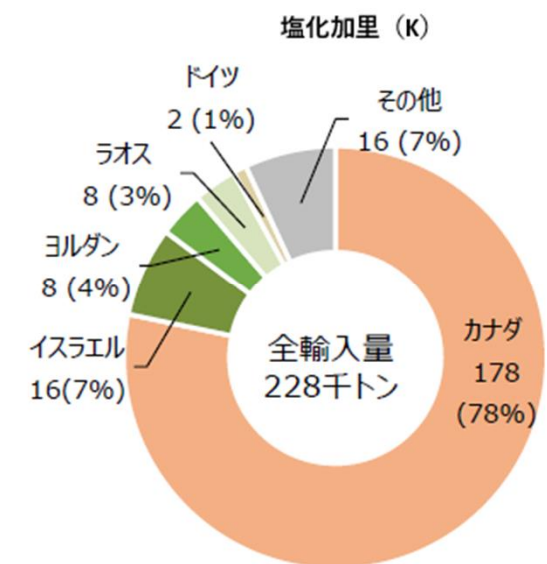
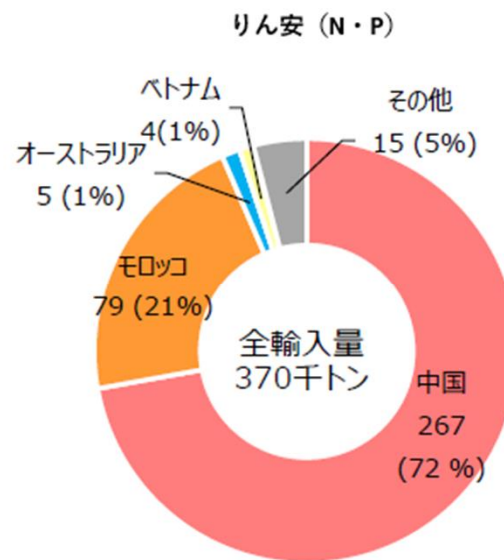
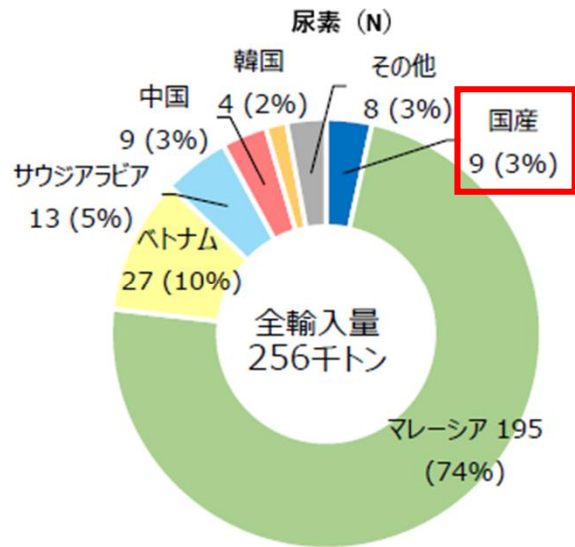


化学肥料・農薬の原料も海外からの輸入です！

化学肥料原料の主原料のほぼ全量を輸入
国内資源への転換が必要！



R6肥料年度（令和6年7月～令和7年6月）



資料：農林水産省作成



(参考)食料自給率の推移

食料自給率（カロリーベース）は、

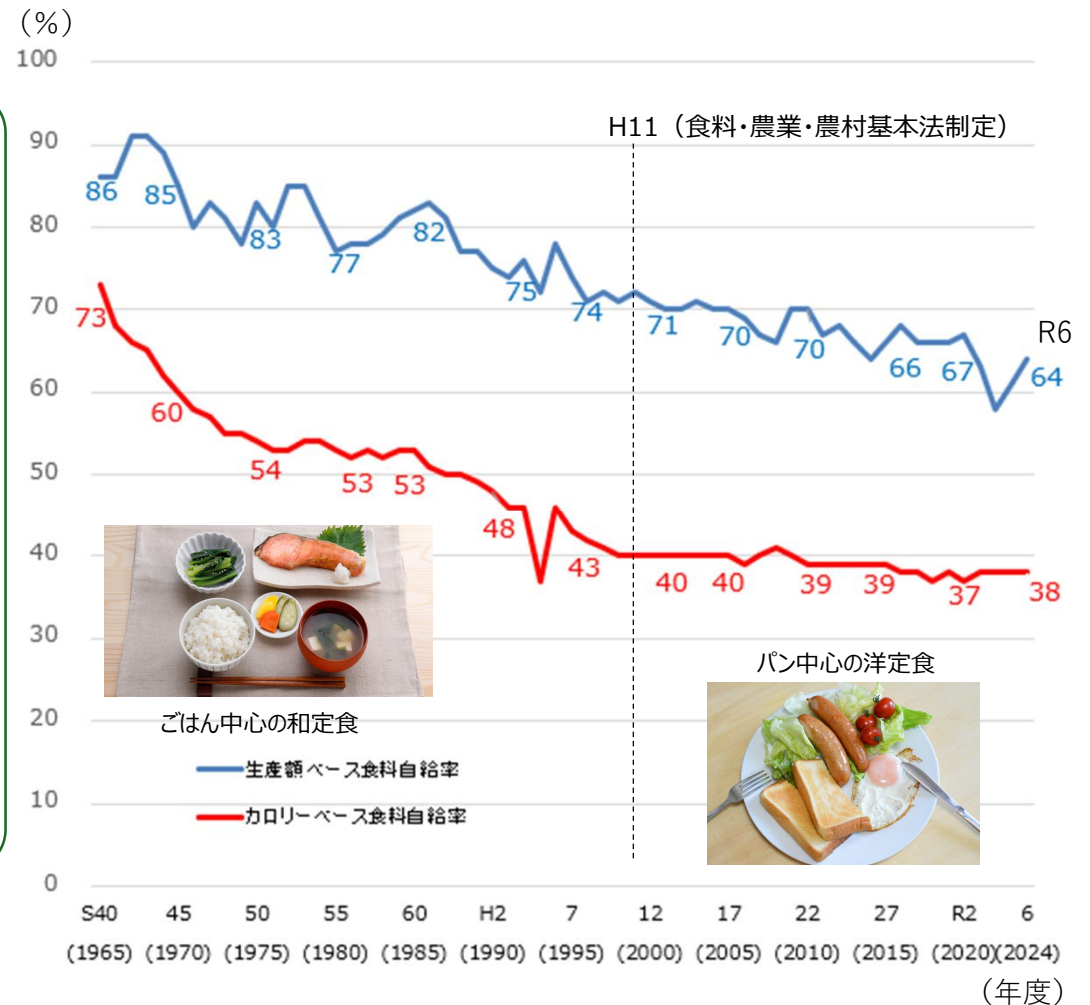
米中心の「日本型食生活」からパンや肉類等中心の「欧米型食生活」への変化の影響等により、昭和40年～平成10年頃にかけて低下してきたが、その後は、40%程度で推移。

- 食料自給率とは、国内の食料全体の供給に対する食料の国内生産の割合を示す指標。
- 分子を国内生産、分母を国内消費仕向として計算。

食料自給率

$$= \frac{\text{国内生産}}{\text{国内消費仕向}}$$

$$= \frac{\text{国内生産 (輸出向けの生産を含む)}}{\text{国内生産(同上) + 輸入 - 輸出 ± 在庫増減}}$$



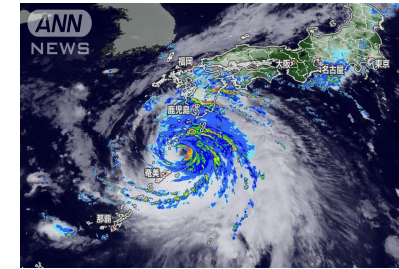
(参考) 米の一人当たり年間消費量

S37年 : 118.3kg → R6年 : 53.4kg
 (茶わん約5.4杯/日) (茶わん約2.5杯/日)

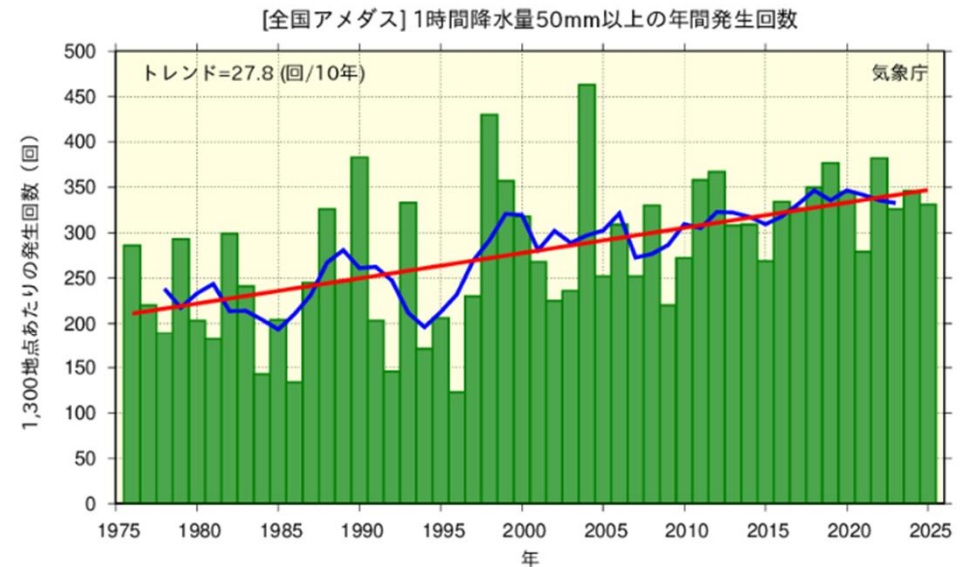
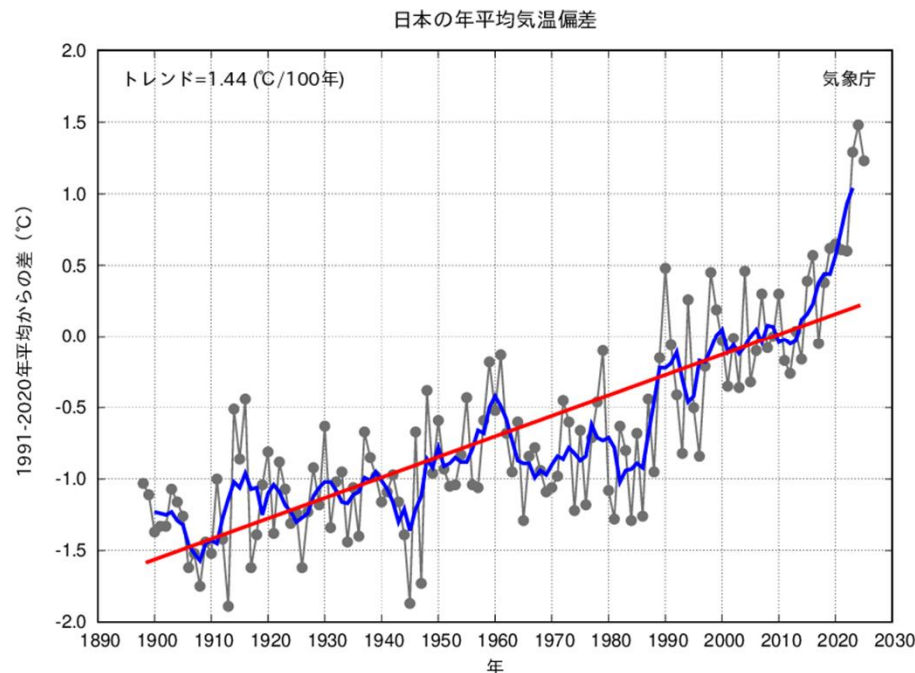
資料：農林水産省「食料需給表」を基に作成

地球温暖化は社会的な問題です！

- 日本の平均気温は、100年あたり1.44℃の割合で上昇
- 2025年の年平均気温は、
1898年の統計開始以降、3番目に高い値
(2024年が1番目、2023年が2番目に高い値)
- 集中豪雨の発生回数も増加傾向



台風10号 (2024年)



折れ線(青)は5年移動平均値、直線(赤)は長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)を示す。

- ・ 全国各地での記録的な豪雨や台風等による被害が頻発
- ・ 作物の収量減少・品質低下、漁獲量の減少など、国民の生活にも悪影響



九州北部豪雨(2017年)



山形・秋田大雨
(2024年)



熊本豪雨(2020年)



河川氾濫によりネギ畑が冠水
(2023年秋田県)



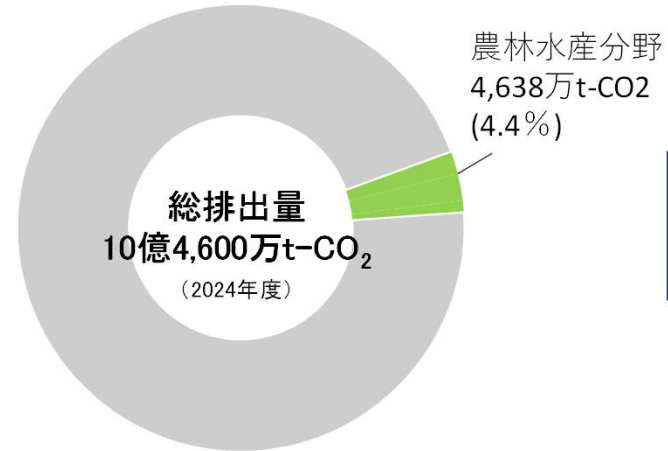
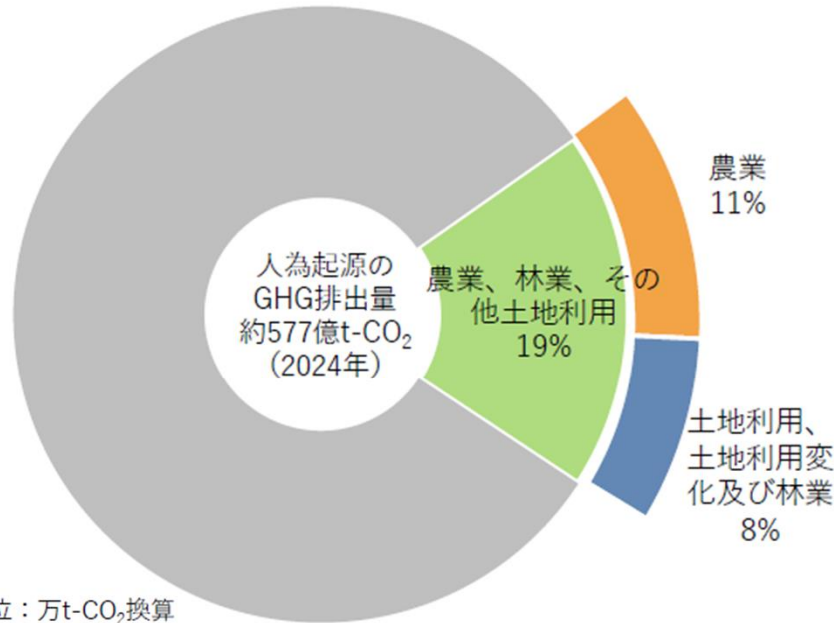
台風で被災したガラスハウス
(2019年房総半島)

農業も環境に影響を与えています！

デジタル技術や国内資源の活用等により環境負荷を抑えることが必要！

世界（約577億 t）

日本（約10億 t）



スマート農業・農業DX

単位：万t-CO₂換算

* 「農業」には、稲作、畜産、施肥などによる排出量が含まれるが、燃料燃焼による排出量は含まない。

出典：「国連環境計画（UNEP）Emissions Gap Report 2025（排出ギャップ報告書2025）」を基に農林水産省作成

出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」を基に農林水産省作成



可変施肥
ドローン
ヒートポンプ
など

主要国は、以前から、環境政策を進める戦略を策定し、実行しています！

EU

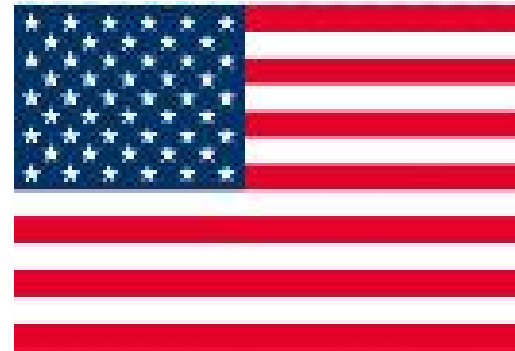


**「Farm to Fork戦略」
(2020.5)**

2030年までに

- ・化学農薬の使用及びリスクを50%減
- ・有機農業を25%に拡大

USA



**「農業イノベーションアジェンダ」
(2020.2)**

2050年までに

- ・農業生産量40%増加と
環境フットプリント半減

(注) 環境フットプリントとは、人体の健康、生活の質、生態系など複数の環境影響領域を評価し、一定の算定基準で数値化する方法。

有機食品の国別の売り上げ額は、 アメリカが8兆円超、 ドイツが2兆円超、中国、フランスが1兆円超です！

国別の有機食品売上額(2022年)



資料 : FiBL & IFOAM「The World of Organic Agriculture statistics & Emerging trends 2024」を基に農林水産省農業環境対策課にて作成

国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小！ 一方、世界の農産物マーケットは、 人口の増加に伴い、拡大する可能性があります！

国内市場の変化

	1990年	2020年	▲ 20%	2050年
人口	1億2,361万人	1億2,586万人		1億1,900万人
高齢化率 (65歳以上の割合)	12.1%	28.7%		37.7%
飲食料の マーケット規模	72兆円	84兆円 (2015年)		
農業総産出額	11.5兆円	8.9兆円		

人口減少、高齢化に伴い、
国内の市場規模は縮小
※日本の人口は、
2008年（1億2,808万人）をピークに減少。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

海外市場の変化

	1990年	2020年	+ 30%	2050年
人口	53億人	78億人		98億人
飲食料の マーケット規模 (主要国)	-	890兆円 (2015年)	→ 1,360兆円 (2030年)	
農産物貿易額	4,400億ドル (約42兆円) (1995年)	1兆5,000億ドル (約166兆円) (2018年)		

世界の農産物マーケットは
拡大の可能性

- ・日本の農林水産業GDP（2019年）
世界8位
- ・日本の農産物輸出額（2019年）
世界50位

資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書（SOCO）：2020年報告」

地球温暖化等の課題に対応するため、2050年を目標に、「みどりの食料システム戦略」を策定しました！

(令和3年5月)

令和4年に、「みどりの食料システム法」を施行！

➤ 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現

(注) CO2ゼロエミッション化とは、2050年までに化石燃料起源のCO2排出量をゼロにすること。

➤ **化学農薬の使用量 (リスク換算) を50%低減**

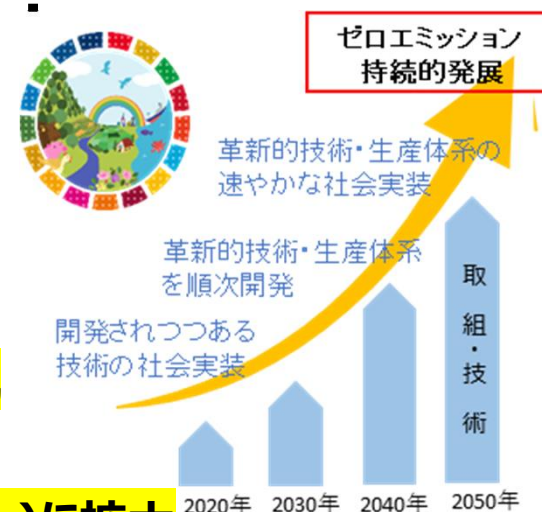
(基準：リスク換算値23,330 (2019年) ⇒ 実績：リスク換算値19,839 (2023年現在) 約15.0%減)

➤ **輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減**

(基準：90万トン (2016年) ⇒ 実績：68万トン (2023年現在) 約25.0%減)

➤ **耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大**

(基準：2.35万ha (2017年度) ⇒ 実績：3.45万ha (2023年現在) 約0.8%拡大)



経済



持続的な産業基盤の構築

- ・**輸入から国内生産への転換**
(肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大など

社会



国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した**健康的な日本型食生活**
- ・地域資源を活かした地域経済循環など

環境

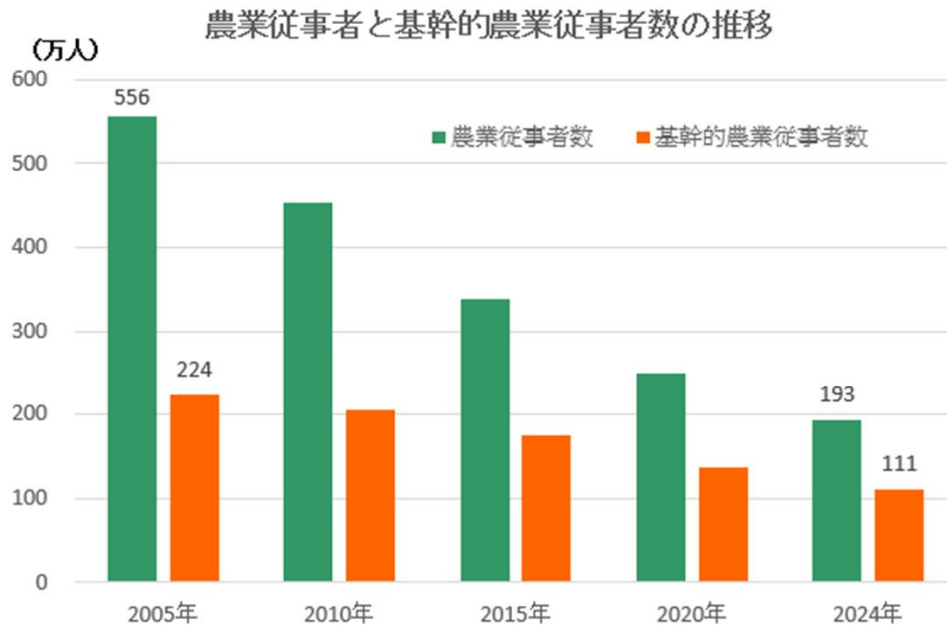


将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

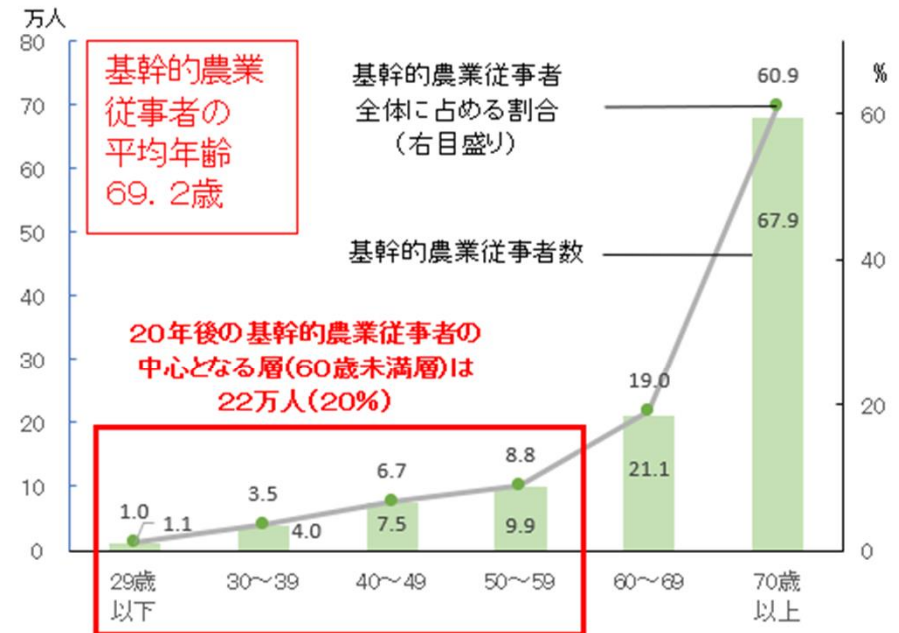
- ・**環境と調和した食料・農林水産業**
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献など

基幹的農業従事者数の減少、高齢化への対応が急務！

- 我が国の人口減少・高齢化が進展する中で、
農業従事者数は、2005年の約556万人から2024年には約193万人
基幹的農業従事者数は、2005年の約224万人から2024年には約111万人と大幅に減少。
- 基幹的農業従事者の中心となることが想定される60歳未満層は、
20年後には全体の約2割の20万人程度。
- 農業の持続性を確保するための対応が必要！



資料：
 ・農林水産省「農林業センサス」（2024年のデータは農業構造動態調査結果）。
 ・基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（雇用者は含まない）。



資料：農林水産省「令和6年農業構造動態調査」を基に作成
 注：1)2024年2月1日時点の数値
 2)「基幹的農業従事者」は15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

改正食料・農業・農村基本法のポイント

(令和6年6月5日に公布・施行)

見直しの4つの方向

世界人口の増加や食料生産の不安定化によって、いつでも、安く、食料が手に入る時代ではなくなる!?

1. 国民の皆さんに食料を届ける力の強化

- 不測時だけでなく、国民一人一人に食料が行き届くよう、**平時から、食料安全保障**に向けて取り組む。
- 国内農業生産を増大**しつつ、輸入の安定確保や備蓄の有効活用などにより、**安定した食料供給**を図る。
- 食料品店の減少やラストワンマイル問題などにより、食料品の入手に困難が生じないように、**食料を届ける力**を整える。
- 輸出を応援**し、農業・食品産業の維持・発展を目指す。
- 農産物等について、**消費者の理解**を得ながら、食料システム全体の中で**合理的な価格形成**を行うための仕組みを構築する。

将来にわたって農業・食品産業を持続するために必要なことは？

2. 次世代へつなぐ、環境にやさしい農業・食品産業への転換

- 環境にやさしい持続可能な農業を展開するため、**有機農業など**を全国に広める。
- 生産、加工、流通、小売といった**食の関係者全員で、温室効果ガスの削減や食品ロス削減**などを目指す。

農業生産を維持するためにどうする？ 20年後には農業者が現在の1/4程度になる!?

3. 新たな技術も活用した、生産性の高い農業経営

- 生産性の高い農業ができるよう、**農地の集積・集約化など**環境を整備。
- スマート農業をはじめとした**新技術や新品種の導入**などにより、更なる生産性の向上を目指す。

農村を元気にするために何が出来る？ 農村の地域社会が維持できなくなる!?

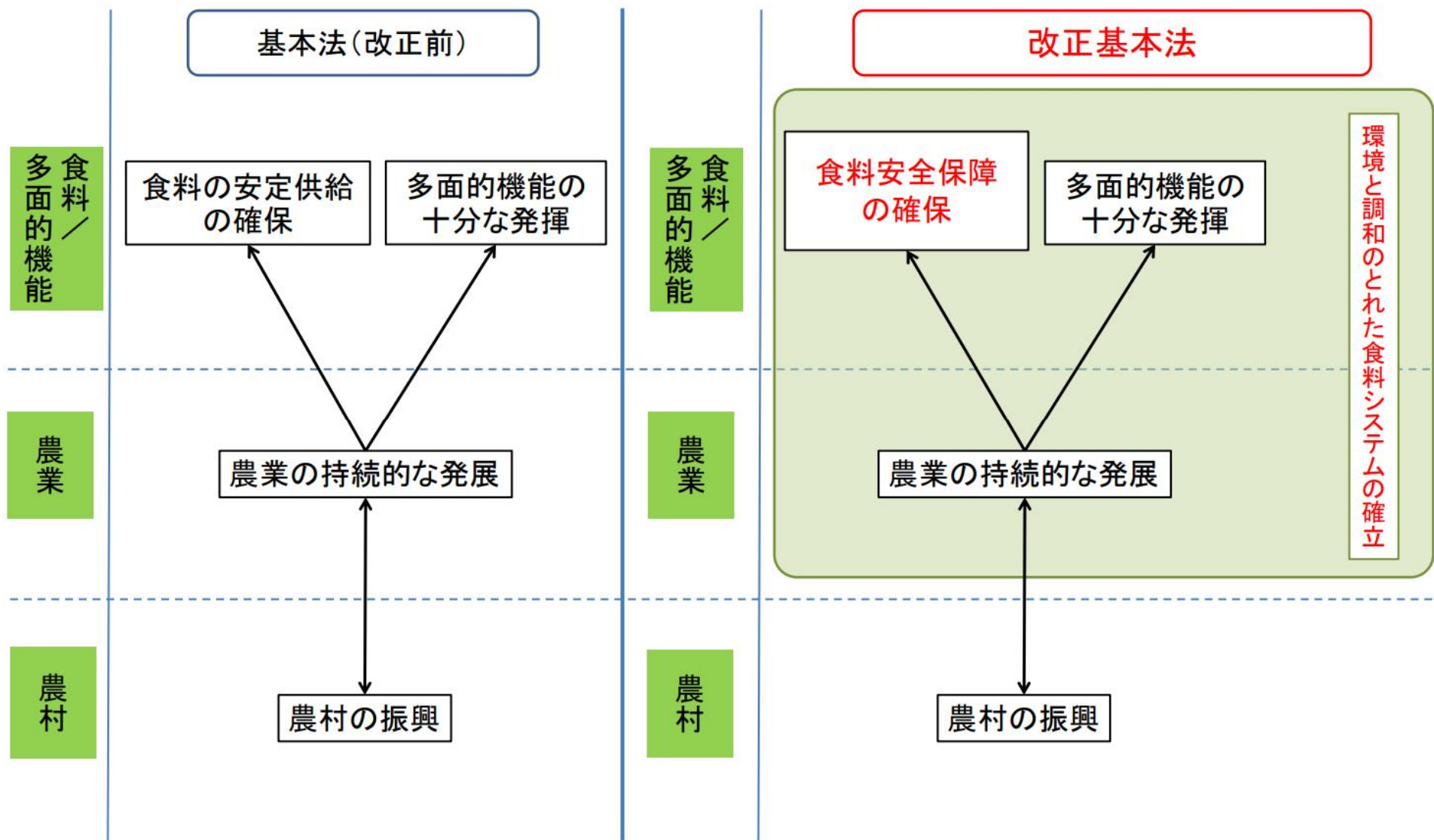
4. 農村・農業に関わる人を増やし、農村や農業インフラを維持

- 農業者、非農業者にかかわらず、**新たな就業機会を確保**するための取り組みを進める。
- 農業インフラについて、**ICT導入やDXの取組等による作業の効率化**を進める。
- 用排水路などを管理しやすいものに整備**し、保全管理しやすくする。
- 人手不足な状況においても、農業者以外の参画を促進し、**農業インフラを地域全体で維持管理**していく取組を進める。

食料・農業・農村基本法
ホームページ



改正食料・農業・農村基本法の基本理念



→ 令和7年4月11日に、新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定

新たな基本計画における主な目標・KPI（2030年）

【目標】

食料自給率（カロリーベース） 38%（2023年） → 45%

農地面積 427万ha（2024年） → 412万ha

49歳以下の担い手 4.8万（2023年）を維持

<生産コスト>

米（15ha以上） 11,350円／60kg（2023年） → 9,500円／60kg

小麦（田） 10,400円／60kg（2023年） → 9,300円／60kg

小麦（畑） 7,700円／60kg（2023年） → 6,200円／60kg

大豆（田） 22,800円／60kg（2023年） → 18,000円／60kg

大豆（畑） 16,700円／60kg（2023年） → 14,600円／60kg

農林水産物・食品の輸出額 1.5兆円（2024年） → 5兆円

インバウンドによる食関連消費額 1.6兆円（2023年） → 4.5兆円

温室効果ガス削減量（2013年度比） 808万t-CO₂（2022年度） → 1,176万t-CO₂

【KPI】

<輸出量>

米	4.4万 t (2023年)	→	39.6万 t (生産量：791万 t (2023年)	→	818万 t)
牛肉	0.9万 t (2023年)	→	1.6万 t		
豚肉	0.2万 t (2023年)	→	0.2万 t		
鶏肉	0.4万 t (2023年)	→	1.0万 t		
茶	0.8万 t (2023年)	→	1.5万 t		

担い手への農地集積率 60.4% (2023年) → 7割

<地域の方針策定に参画する女性農業者の割合>

農業委員	14% (2023年)	→	30%
農協役員	9.6% (2022年)	→	20%
土地改良区理事	1.4% (2023年)	→	10%

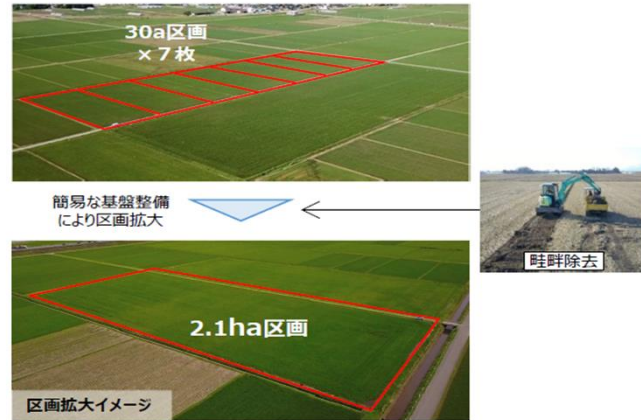
農林水産省ホームページ (食料・農業・農村基本計画)

https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html

農業構造転換集中対策における主な支援策

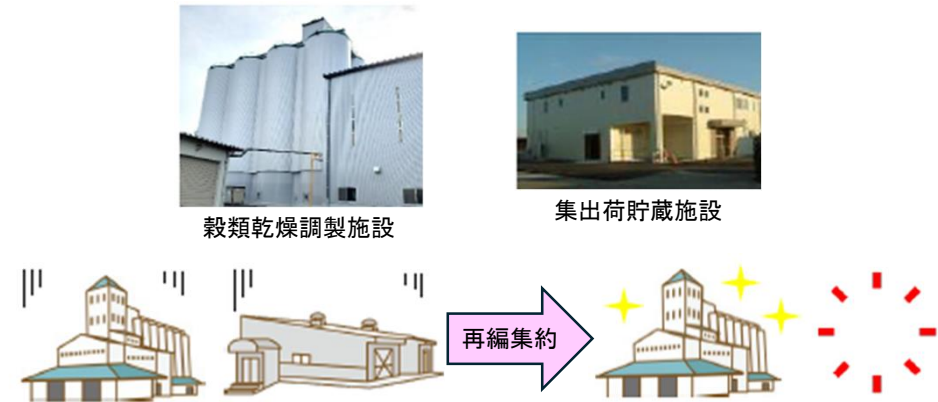
- ・ 新たな基本法に基づく初動5年間(令和7~11年度)の農業構造転換集中対策期間において、食料安全保障の確保や農業・畜産業の生産基盤の強化等を推進

○ 農地の大区画化等



- ・ 大区画化等加速化支援事業

○ 共同利用施設の再編集約・合理化



- ・ 新基本計画実装・農業構造転換支援事業

○ スマート農業技術・新品種の開発、生産性向上に資する農業機械の導入



- ・ スマート施設園芸展開推進事業
- ・ スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート事業
- ・ 農地耕作条件改善事業 (GNSS基地局の設置等)
- ・ スマート捕獲等普及加速化事業 (鳥獣被害防止総合対策交付金)

○ 施設整備、販路拡大等を通じた輸出産地の育成

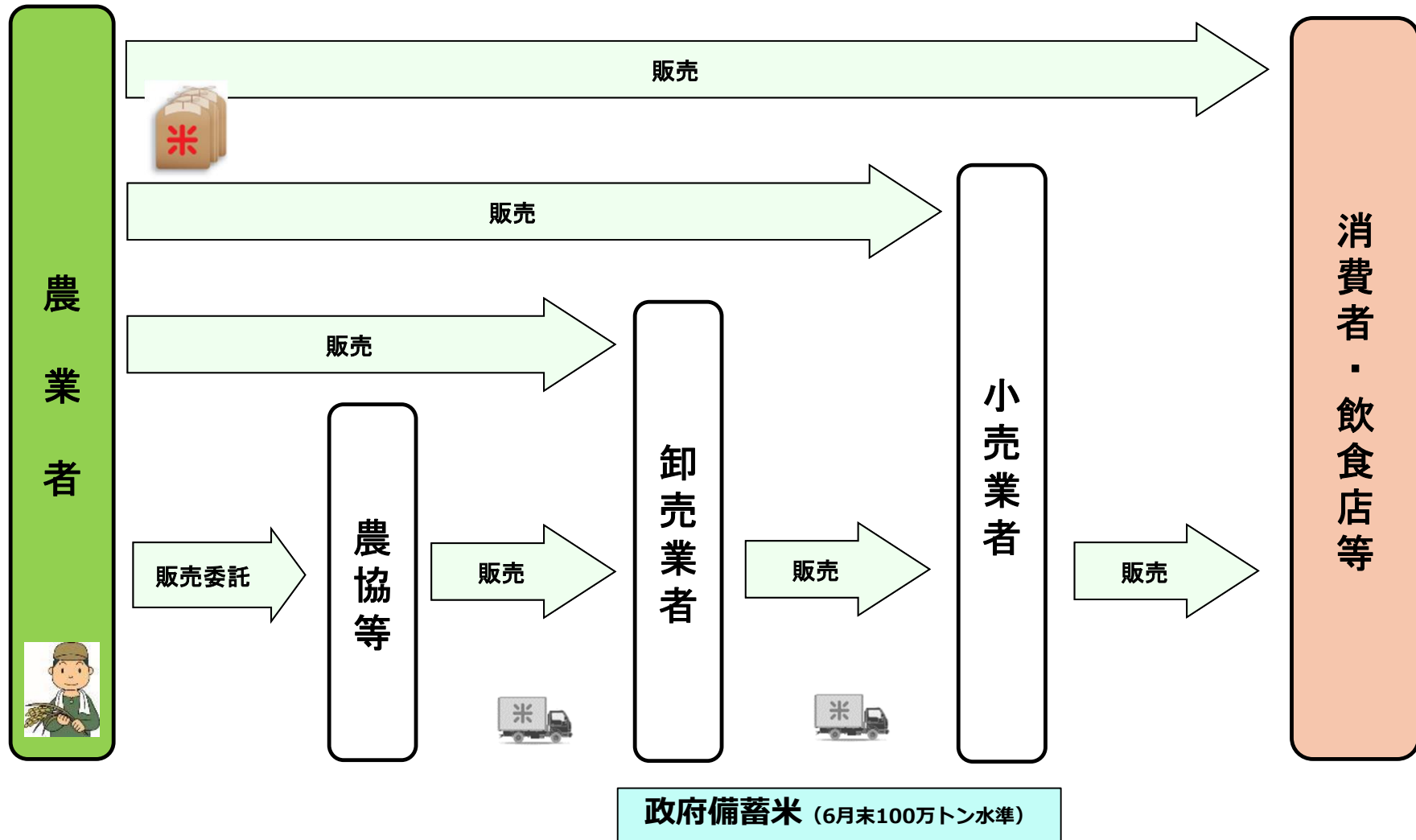


- ・ サプライチェーン連結強化プロジェクト事業
- ・ グローバル産地づくり推進事業
- ・ 食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備事業
- ・ 輸出環境整備推進事業
- ・ ターゲット国における輸出・海外展開支援体制の確立強化事業
- ・ インバウンドによる食関連消費拡大推進事業

最近の米の状況について

米の生産・流通の主な流れ

販売先を確保できない農業者は、通常は農協等に販売委託

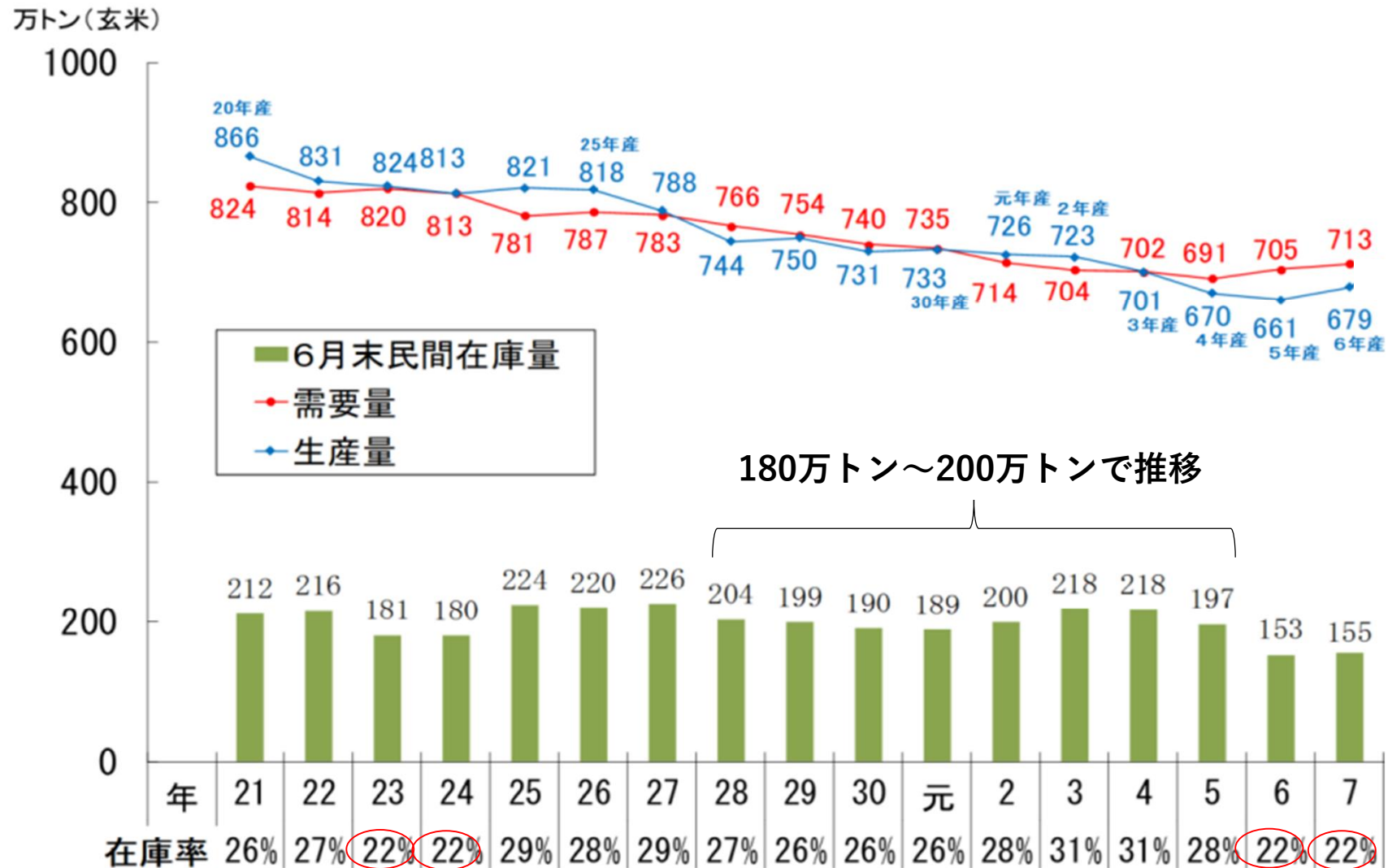


※ 米は、主食用米のほかに、加工米飯、清酒・焼酎、米粉、酢、米菓、味噌、包装もちなどに流通しています。

6月末の民間在庫量の推移

(米は秋に収穫されて販売開始。6月末頃が通常端境期)

- 近年、需要量が生産量を上回る状況で推移



令和7年～令和8年の主食用米の需給見通し

(令和7年7月～令和8年6月)

令和7年6月末民間在庫量① 155万トン

令和7年産主食用米の生産量② 747万トン

(令和6年産679万トンに比べて、約10万ha、60万トン強の増)

政府備蓄米供給量③ 23万トン

主食用米供給量 (④ = ① + ② + ③) 925万トン

主食用米需要量 (見通し) ⑤ 691万トン～704万トン
(令和7年7月～令和8年6月)

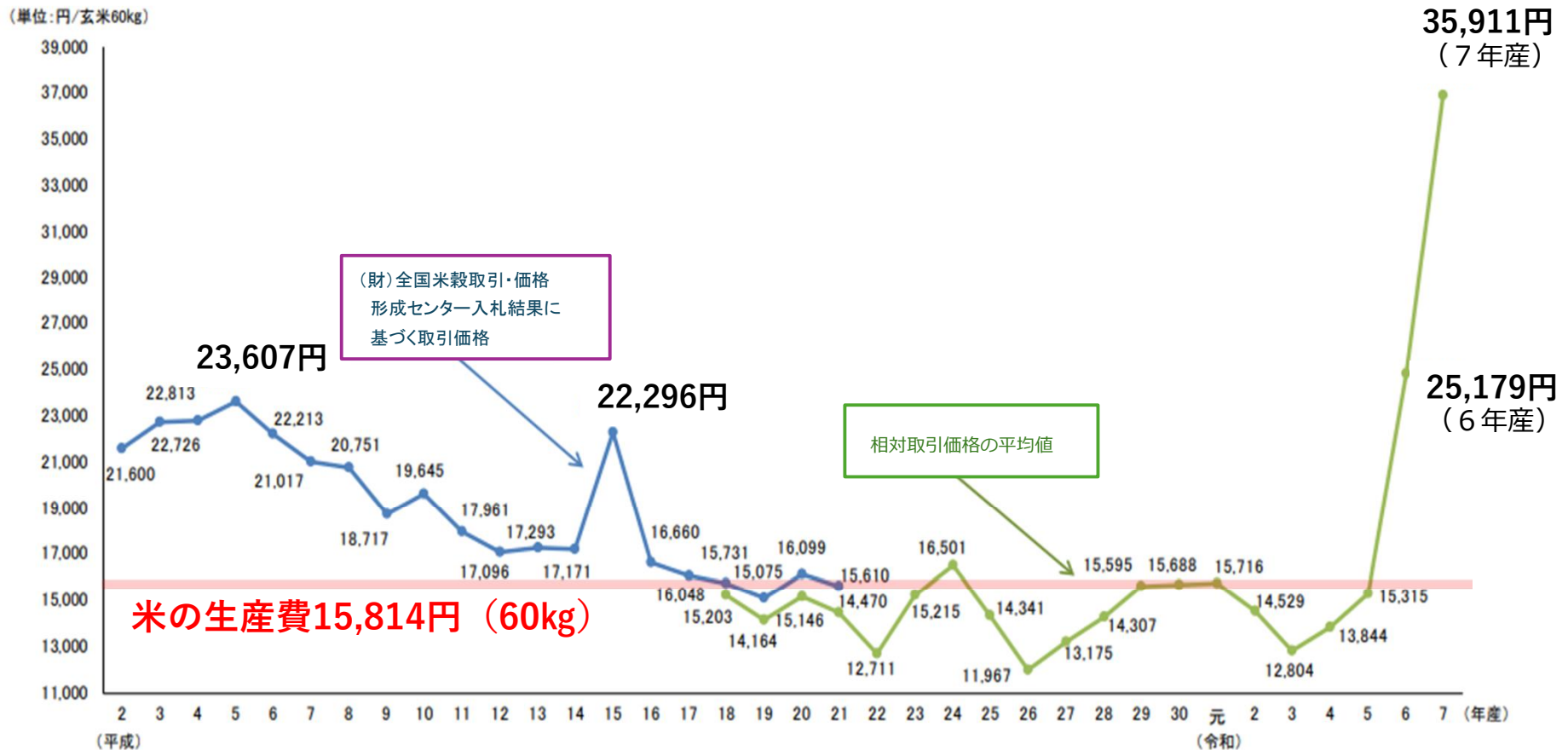
令和8年6月末民間在庫量 (見通し) (④ - ⑤) 221万トン～234万トン

※ 「米穀の需給と価格の安定に関する基本指針」(令和8年3月公表)から抜粋

価格は通常、需要と供給のバランスで決まる

- 令和6年産は、高温障害等で精米が不足、インバウンド需要も影響

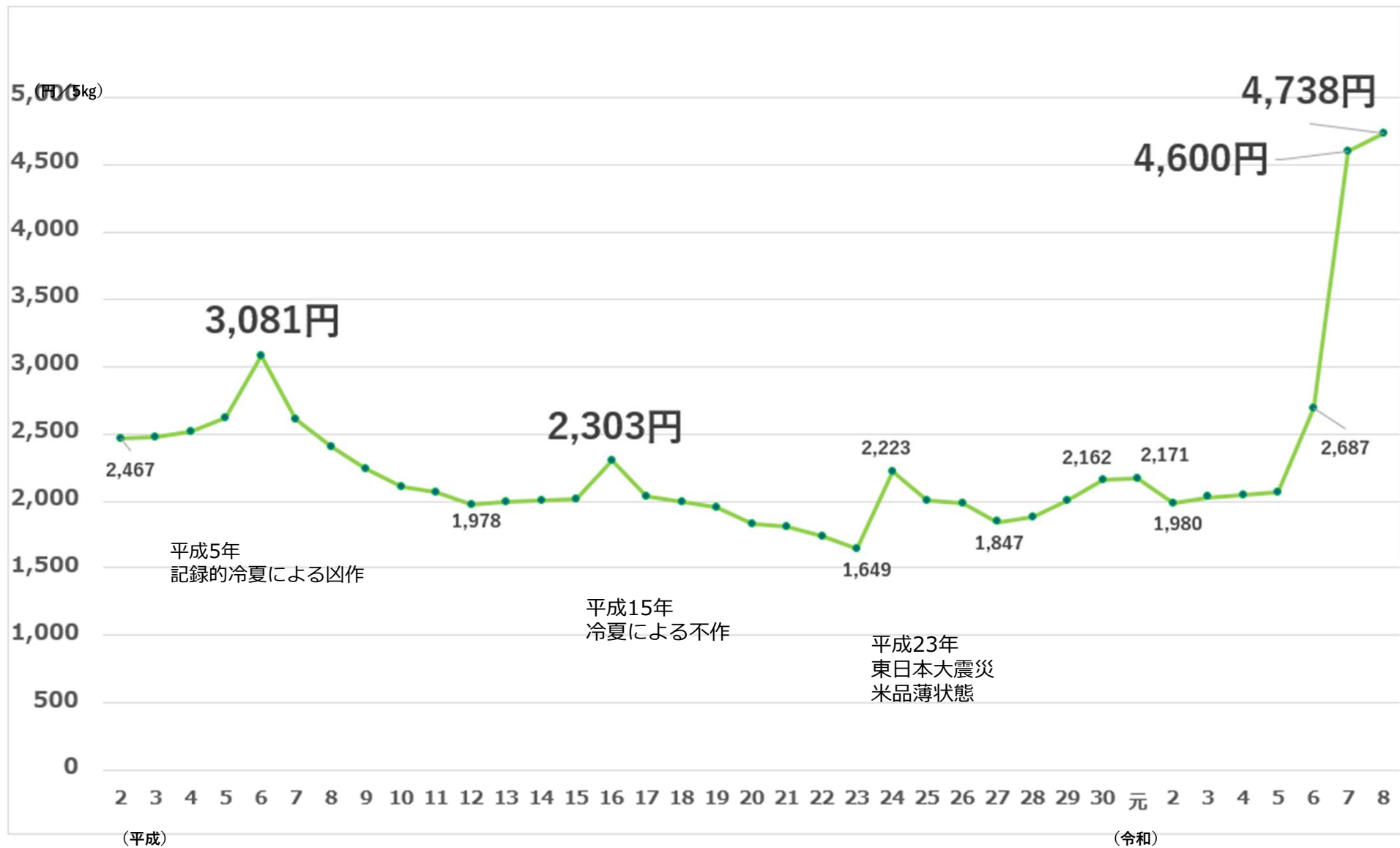
※ 米も商品であり、生産するには、
 肥料、機械等の物財費や労働費等がかかる → 農業経営の持続性



注：年産別平均価格（令和7年産は、出回りから令和8年4月までの速報値）

※ 米の生産費は、令和6年産のデータ（全算入生産費）

(参考) 店頭での精米価格 (5 kg) の推移



出展: 総務省統計局の小売物価統計調査(動向編)

注: 主要品目の都市別小売価格-都道府県庁所在市及び人口15万以上の市
うるち米(単一原料米,「コシヒカリ」以外)

※令和8年は、1月～4月の平均価格

(参考) 「ごはん」と「ぱん」の比較 (試算)



茶わん一杯 (例: 65グラム)



食ぱん 2枚 (例: 120グラム)

カロリー **234 kcal**

298 kcal

価格 **約60円**
(例: 4,500円/5kg)

約150円
(例: 400円/一斤、国産小麦)

**環境と調和のとれた食料システムの確立
～ 環境にやさしい農業と地産地消が大切 ～**

地球温暖化等の課題に対応するため、2050年を目標に、「みどりの食料システム戦略」を策定しました！

(令和3年5月)

令和4年に、「みどりの食料システム法」を施行！

➤ 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現

(注) CO2ゼロエミッション化とは、2050年までに化石燃料起源のCO2排出量をゼロにすること。

➤ **化学農薬の使用量 (リスク換算) を50%低減**

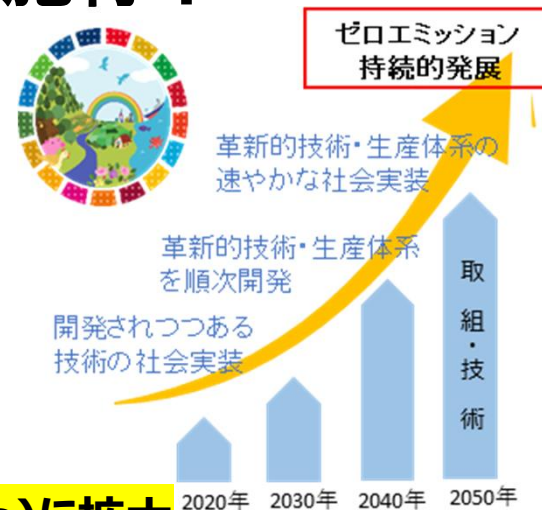
(基準：リスク換算値23,330 (2019年) ⇒ 実績：リスク換算値19,839 (2023年現在) 約15.0%減)

➤ **輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減**

(基準：90万トン (2016年) ⇒ 実績：68万トン (2023年現在) 約25.0%減)

➤ **耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大**

(基準：2.35万ha (2017年度) ⇒ 実績：3.45万ha (2023年現在) 約0.8%拡大)



経済



持続的な産業基盤の構築

- ・**輸入から国内生産への転換**
(肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大など

社会



国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した**健康的な日本型食生活**
- ・地域資源を活かした地域経済循環など

環境



将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・**環境と調和した食料・農林水産業**
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献など

鹿児島県も、「みどり食料システム法」の下、 環境負荷の低減に関する目標を策定しています！

【みどりの食料システムの実現に向けた指標】

化学農薬の使用量の減少 34kg/ha ⇒ 31kg/ha (R12)

化学肥料の使用量の減少 272kg/ha ⇒ 218kg/ha (R12)

有機農業取組面積の拡大 999ha ⇒ 2,000ha (R13)

(有機JAS認証取得割合) (80%) (90%)

バイオマス利用拡大 88% ⇒ 96% (R7)

産業部門における温室効果ガスの排出量の減少

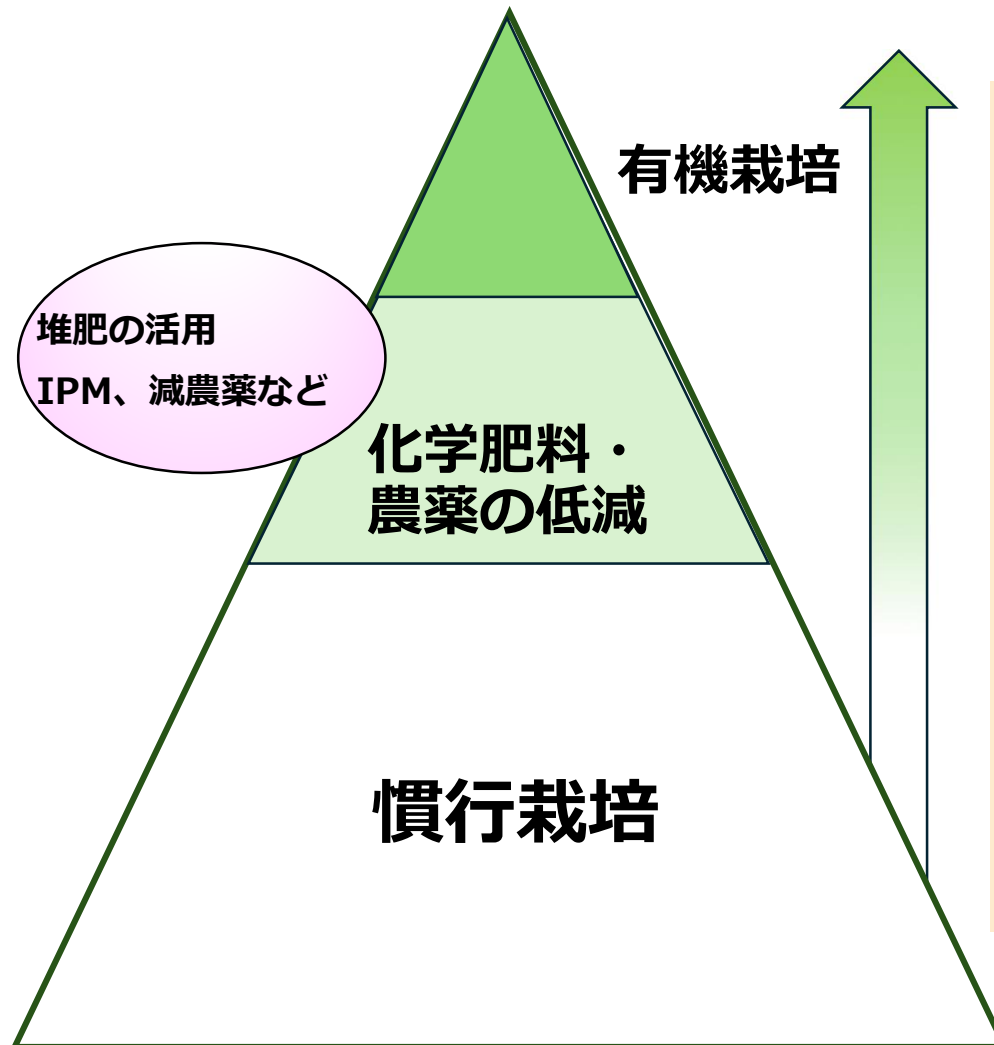
2,388千トンCO₂ ⇒ 1,308千トンCO₂ (R12)

注1) 化学農薬使用量は、県内の農薬流通量(経営技術課調べ)を、延べ耕地面積で除したもの、目標は国基本方針の化学農薬使用量低減目標に準ずる。

注2) 化学肥料使用量は、主要肥料(10種類)都道府県別出荷量((一財)農林統計協会「ポケット 肥料要覧」より)を延べ耕地面積(飼肥料作物を除く)で除したもの、目標は国基本方針の化学肥料使用量低減目標に準ずる。

注3) 有機農業取組面積及び有機JAS認証取得割合は、「鹿児島県有機農業推進計画」(令和3年3月)、バイオマス利用率は、「鹿児島県バイオマス活用推進計画」(平成29年3月)、産業部門における温室効果ガス排出量は「鹿児島県地球温暖化対策実行計画」(令和5年3月)による。

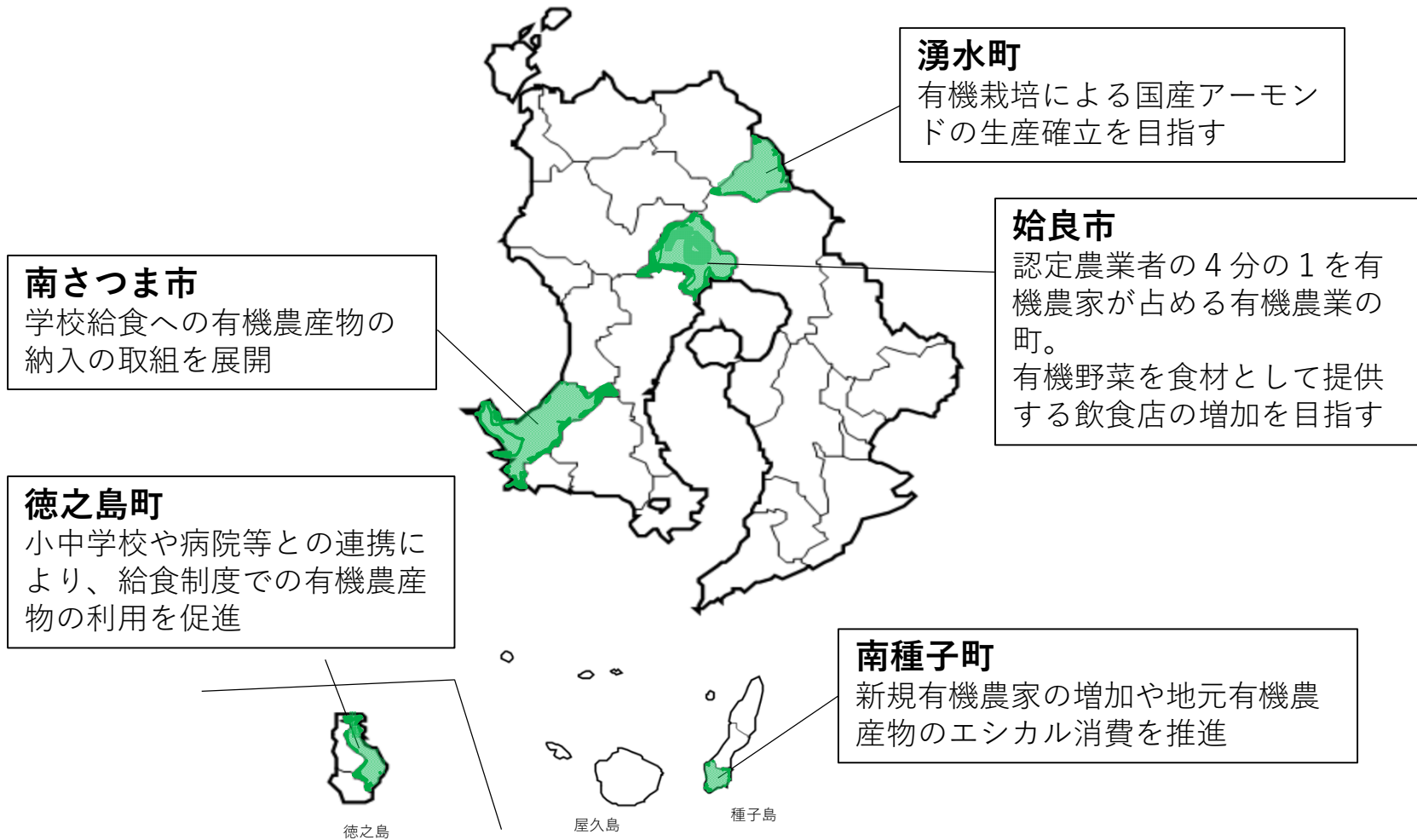
(参考) 栽培方法の転換の考え方



- ・ みどりの食料システム戦略では、化学肥料・農薬の使用量の低減、有機農業の拡大を推進。
- ・ **環境負荷低減**に取り組みつつも、**農業所得を十分に確保し、農業経営を継続**できることが大切。
- ・ **地域の風土、作物の特性**なども踏まえ、まずは、**できることから始める**ことが適当。

「オーガニックビレッジ」宣言をしている鹿児島県の自治体

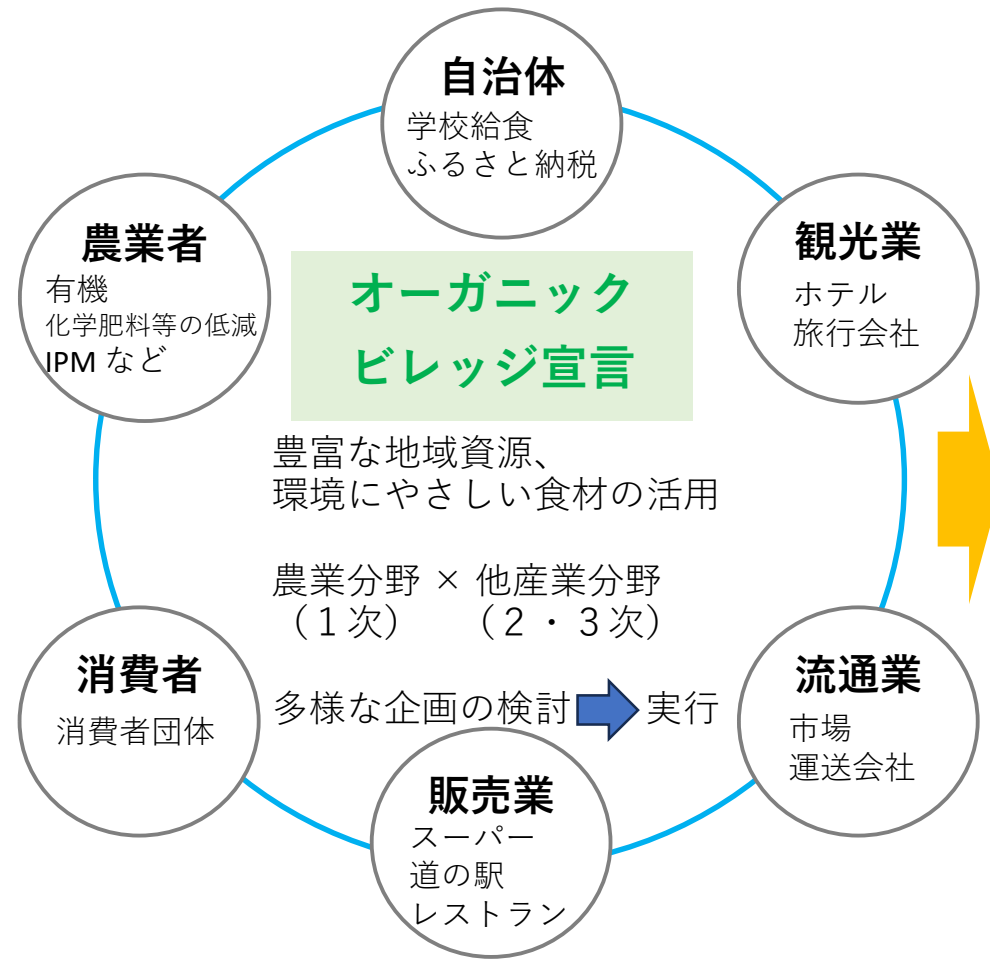
※「オーガニックビレッジ」とは、みどりの食料システム戦略推進交付金（有機農業産地づくり推進（緊急）事業）を活用し、有機農業の産地づくり等に取り組んでいる自治体。



※令和7年2月7日時点で、**5市町**

オーガニックをテーマに、 地域資源をフル活用し、鹿児島を盛り上げる！

- ・ 鹿児島には、自然、農産物等の地域資源が豊富
- ・ 各産業の関係者がコンソーシアムを組成し、「オーガニックビレッジ宣言」
- ・ 各産業分野が連携し、オーガニックをテーマとした各種イベントを企画
- ・ 農林水産省が政策等で後押し



鹿児島・産業の持続的な発展

海外・国内の観光客
年間約2,000万人*

※R6年「延べ宿泊者数」と「延べ日帰り客数」の合計（「鹿児島県観光統計」から引用）

鹿児島県内の取組事例 (ほんの一例)

(参考) 堆肥等の地域資源を活用した肥料 (鹿児島市：JA鹿児島県経済連)

JA鹿児島県経済連は、化学肥料の原料価格高騰に対応するため、
畜産堆肥を活用した低コスト肥料（堆肥と化学肥料を混合したペレット肥料）
を開発
主に、茶用、園芸用として販売



(株) JA物流かごしま 肥料工場



ミドリッチ茶1号、ミドリッチ茶2号、アグリッチ888

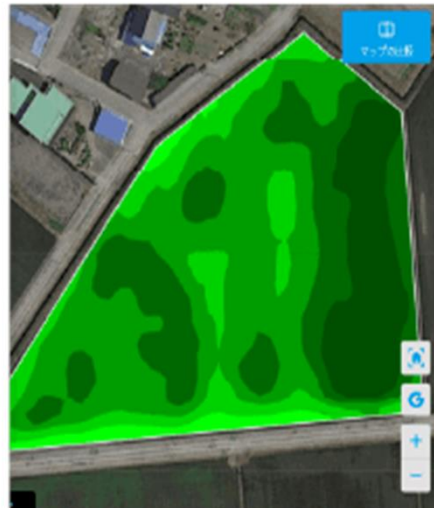
(参考) 衛星データを活用した可変施肥の実証 (さつま町：鹿児島県×ザルビオ)

ザルビオの衛星とセンシングデータを活用し、土壌や生育状況に応じて、必要な場所に必要な量だけ施肥
これにより、化学肥料の使用量が減

実際の収量データマップ



地力マップが示す地力



土壌等の状況に応じて適量の肥料を投入

(参考) 組合で有機農業 (鹿児島市：かごしま有機生産組合)

生産農業者数 約165名
うちJAS有機認証済 約100名



有機農産物の直営店（「地球畑」）



有機JAS法に対応した育苗（始良市）



有機JAS認証の自社工場で加工品を製造

かごしま有機生産組合のホームページ <https://kofa.jp/>

IPM農法によるオクラの生産 (指宿市：JAいぶすきエコオクラグループ)

天敵昆虫等を活用し、
化学農薬の使用量を減

会員23名 栽培面積6.4ha



ハウス栽培オクラ

露地栽培オクラ



生育中のオクラと花

- ・ オクラ畑の周りにバンカー植物(ソルゴー)を栽培。
- ・ ソルゴーには、オクラに害のないアブラムシが発生。そこに益虫のテントウムシ等呼び込む。
- ・ そして、テントウムシ等がオクラに繁殖したアブラムシも食べる。

<オクラ>

<ソルゴー>



ヒメカメノコテントウ

VS



アブラムシ

(参考) IPM農法によるピーマンの生産 (志布志市：JAそお鹿児島島ピーマン部会)

天敵昆虫等を活用し、
化学農薬の使用量を減

会員100名 栽培面積28ha



ヒメカメノコテントウ

VS



ヒエノアブラムシ

生育中のピーマン

(参考) JGAPを取得し、減農薬栽培 (薩摩川内市：有限会社松田農場)

金柑では、日本初の「JGAP」を2013年に取得
有機肥料を活用しつつ、減農薬栽培を実施



(参考) 有機栽培の桑葉で6次産業化 (始良市：株式会社わくわく園)

「消えゆく桑の葉に再び光を」、
「食べるものが体を作る」の考えで、
有機栽培による桑葉の生産



有機JAS認定圃場（桑葉）



有機JAS認証工場で桑茶などを製造
(自社完結型ビジネスモデル)



観光地の売店でも販売

株式会社わくわく園のホームページ

<http://wakuwakuen.co.jp/>

(参考) ナノファイバーで減農薬 (薩摩川内市：須賀農園)

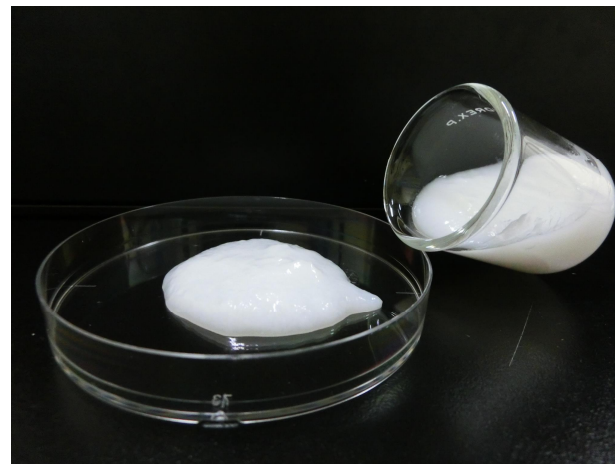
中越パルプが開発したセルロースナノファイバー（竹の抽出液で細菌等の侵入を防ぐ効果がある）を用いた物理的防除により、化学農薬の使用低減に寄与



ハウス内の鉢植えアジサイ



栽培中のラナンキュラス



ナノファイバー

(参考) みえるらべるの取得 (阿久根市：まるよし農産工業)

まるよし農産では、鹿児島県内で初めて「みえるらべる」を取得

令和6年産のお米から「みえるらべる」を表示して販売



まるよし農産の代表



取得された「みえるらべる」

堆肥の使用(化学肥料の散布ゼロ)や中干し延長(メタンガス排出の削減)を行うことで、温室効果ガス排出量の削減貢献率が20%以上となり、3つ星★★★を取得

化学農薬・化学肥料の使用量の低減(5割以上減)や中干し延長を行うことで、生物多様性保全への配慮の取組が2得点となり、2つ星★★を取得

(参考) 下水汚泥の利用 (鹿児島市水道局下水汚泥堆肥化場)

下水汚泥を利用した肥料を開発
年間約1万トンの製造・販売



下水汚泥発酵肥料「サツマソイル」



発酵中の堆肥



完成した堆肥

(参考) 産学官金の連携協定によるGX推進 (鹿児島県×民間事業者等)

鹿児島県は、令和6年4月に、味の素(株)、畜産関係団体・事業者、鹿児島大学、金融機関と産学官金の連携協定を締結

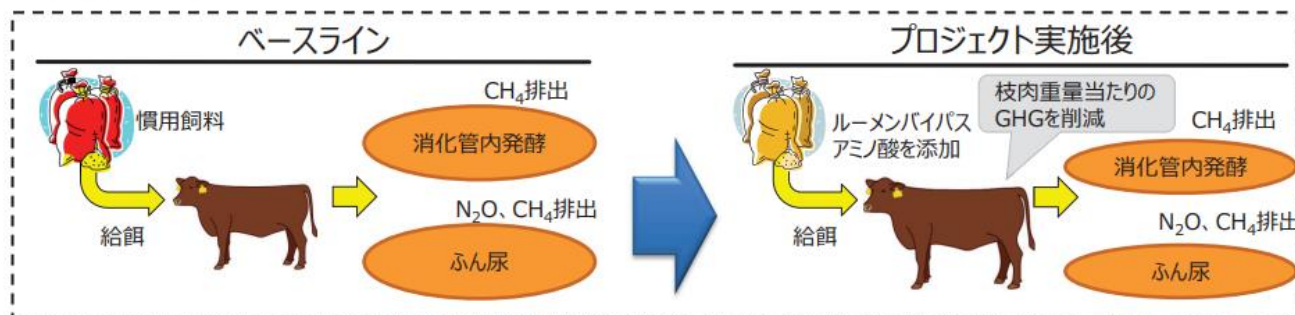
牛用アミノ酸リジン製剤(栄養吸収率を高める飼料用アミノ酸)を活用し、肉用牛の飼養期間を短縮することにより、牛からの温室効果ガスの排出量を削減

J-クレジット制度を活用し、肉用牛の高付加価値化、新たな販路開拓に挑戦



牛用アミノ酸リジン製剤を活用して飼養された肉用牛

【方法論のイメージ】



(参考) エコアクション21の取組

マトヤ技研工業株式会社
(鹿児島県曾於市末吉町)



- ・ 社用車14台のうち10台を**エコカー**に変更 → 運転に伴う二酸化炭素の排出量
4万8036キロ→3万3729キロに減
- ・ エアコンを**省エネモデル**に変更 → 電力使用に伴う二酸化炭素排出量
6万1252キロ→5万8305キロに減
- ・ 照明を全て**LED**にして休憩中は消灯
- ・ 製品を作る際に出る**アルミや鉄などの金属くずの分別**を徹底 → 4年連続でリサイクル率90%以上を達成 (一般ごみの分別も徹底するなど、環境守るという意識が社全体に根付いた)

(参考) 焼酎粕の再利用の取組

濱田酒造株式会社

(鹿児島県いちき串木野市)

- ・ 「焼酎粕」の再利用
(酒造メーカー5社の共同事業)

「焼酎粕」をメタン発酵させ、
バイオガスを取り出し、
ボイラーの燃料として活用



家畜の飼料や堆肥の原料などにも利用

- ・ LED照明の切り替えや、
重油からLNGへの燃料転換
など、省エネ活動を推進

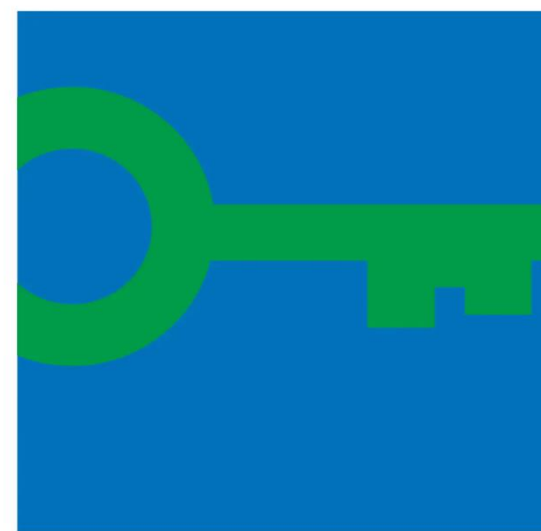


(参考) GreenKeyの取得、環境負荷低減の取組

シェラトン鹿児島

(鹿児島県鹿児島市)

- **2024年10月に、国際的な環境認証「Green Key (グリーンキー)」を取得**
現在も継続して更新
(13のカテゴリ、75の必須項目と75の努力項目で構成)
- **サステナビリティチームの発足**
従業員向けにゴミのリサイクルに関する研修
気候変動などの環境問題に関する講習を定期的実施 など
- **地産地消とフードロスへの取組**
県内の市町村と連携し、地元食材の魅力を発信する食のフェアを開催
循環型リサイクルも始動 (生ごみを堆肥化、それを散布して育てた高菜をホテルで使用)

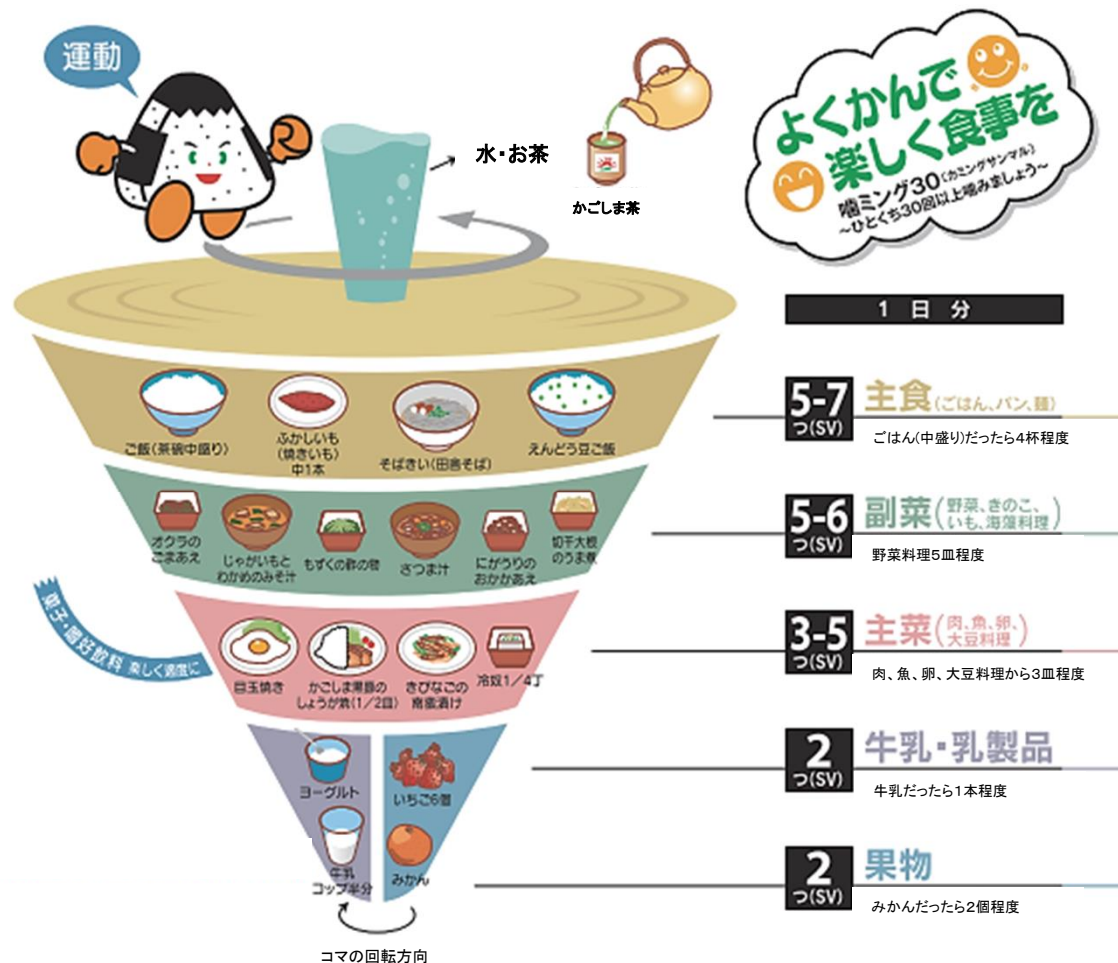


Green Key

**バランスの良い食生活や
地産地消も、大切！**

人間の身体は、水と食べ物で出来ている！

主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の5つのグループ
まんべんなく、コマの形になるように（上の方にあるグループ
ほどしっかりと）食べると、食事バランスはOK！



写真提供：鹿児島県栄養士会

食事バランスガイド (かごしま版)

料理例など
詳しく知りたい方は、
こちらから



資料：鹿児島県

米を中心とした日本型食生活も必要！ → 子供・大人の食育

鹿児島県内で作られたものを食べると、地産地消！

例えば、学校給食・・・

今日のメニューの食材は、
何だろう？ どこで作られているんだろう？
どんな栽培方法なんだろう？

きびなご：□□産

牛乳：◇◇産

黒糖：▽▽産

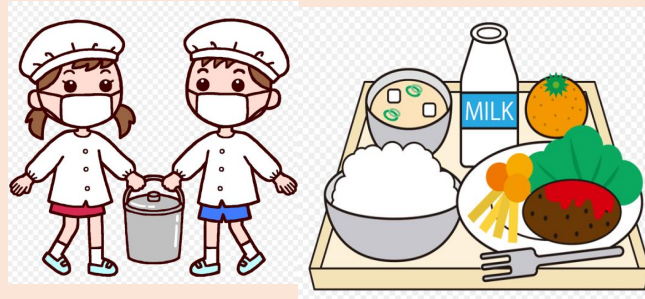
米：○○産

野菜：△△産



写真提供：鹿児島市郡山学校給食センター

地産地消・・・消費者も安心して食料を調達。 農業者も売り先がはっきりして、安心！



学校給食

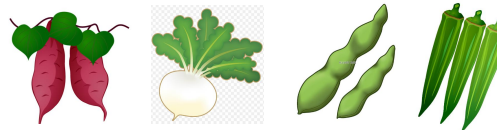
県内産の食材や地場産の有機野菜を活用



写真提供：始良市



スーパー、直売所など



鹿児島県産農産物



家庭での食事

みどりの食料システムの実現に向けた 九州農政局鹿児島県拠点の取組 (令和7年度／8年度)

**「みどりの食料システム戦略推進鹿児島ネットワーク」の
会員等の皆さんの取組を支援するためのイベントを企画**

みどりの食料システム戦略に関心を持っていただく方を増やし、戦略に関する取組を、より一層推進していくため、

「みどりの食料システム戦略推進鹿児島ネットワーク」を運営。

消費者、農業者、農業者団体、自治体、民間事業者等の皆さんが参加。

令和 7年 3月現在 32

令和 8年 3月現在 71

会員等の皆さんのニーズに対応し、各地でセミナーを開催。

「これからは、環境にやさしい農業と地産地消が大切！」がテーマ。

みどりの食料システム戦略推進 鹿児島ネットワークに参加しませんか？

会費は無料です!!

ネットワークの会員になっていただくと

- ・みどりの食料システム戦略に関する施策の情報を提供
- ・各種イベントのご案内や取組事例等のご紹介をさせていただきます

令和7年度の主なイベント



みどりの食料システム戦略に関する講演活動



オーガニック・地産地消ツアーの更新・PR活動



環境にやさしい食材を使用した料理教室・セミナー(県栄養士会と共催)



環境にやさしい農産物のスーパーでのPR販売

会員登録は、WEBで

https://www.contactus.maff.go.jp/j/kyusyu/form/kagoshima_network_new.html

登録の方は
こちら



【お問合せ先】
農林水産省九州農政局鹿児島拠点
TEL:099-222-5840
E-mail:kagoshima_sanjikan@maff.go.jp

みどりの食料システムの普及活動

(これからは、環境にやさしい農業と地産地消が大切！をテーマに講演)

	講演実施日	対象者
会員向け セミナー	令和7年6月17日	日置市地域女性連絡協議会会員等
	令和7年7月15日	鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会会員等
	令和8年1月19日	鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会伊集院支部研修会参加者
	令和8年1月21日	鹿児島県地域女性団体連絡協議会地区代表者
会員以外への セミナー	令和7年4月8日	MBCマーケティング懇談会会員
	令和7年4月15日	南日本広友会会員
	令和7年5月12日	始良市認定農業者の会総会
	令和7年6月10日	鹿児島県食品産業協議会通常総会
	令和7年6月23日	かごしま農業経営研究会総会
	令和7年6月27日	鹿児島ロータリークラブ会員
	令和7年7月11日	鹿児島農業経営アドバイザー連絡評議会
	令和7年7月25日	さつま町認定農業者・農業委員
	令和7年7月27日	鹿児島市田上台地区の消費者
	令和7年8月26日	県内のJA営農指導員
	令和7年9月28日	かごしま協同集会2025参加者
	令和7年10月5日	放送大学の学生
	令和7年10月6日	JA鹿児島県青壮年組織協議会会員
	令和7年10月7日	県内のJA役職員
	令和7年10月28日	鹿児島市内の消費者
	令和7年11月16日	日置市日置地区の消費者
	令和7年11月23日	和泊町農業祭参加者
	令和8年1月15日	県外に本社のある企業の鹿児島支店長等
	令和8年1月22日	環境にやさしい持続可能な農業推進研修会
令和8年1月30日	令和7年度南薩地区農林技術協会研修会	



日置市地域女性連絡協議会での講演



鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会
伊集院支部研修会での講演

環境にやさしい農産物などを使用した料理教室

消費者に、環境にやさしい農業を知ってもらい、有機食材による郷土料理を作って食べてもらう、食育セミナーで日本型食生活の必要性を理解してもらい、地元の食材を食べることを習慣に！

【6月21日（土）】

有機野菜やIPMオクラなどの環境にやさしい農産物、暑さに強く品質が低下しにくい米として開発された「あきの舞」のほか、地産地消も意識して、ジビエ肉（鹿・猪）を使用。



鹿肉のスペアリブ・猪肉の味噌漬けにIPMオクラを添えて

【9月27日（土）】

かごしまブランド農畜産物や有機野菜、有機調味料、喜界島産の有機黒糖などを使用。



有機黒糖をかけた甘酒ヨーグルトアイス

【1月31日（土）】

桜島大根やGI登録の枕崎鰹節、かごしま農業女子プロジェクト会員が生産した農畜産物を使用。



春菊のみかんソース和えと鰹だしで作る桜島大根のクリームスープ

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ
https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/070621_Past_tense.html

環境にやさしい農産物のPR販売（1）

スーパーなどの店頭で、消費者に対して、環境にやさしい農産物の価値を直接伝える！

【7月27日（日）】

JAいぶすきオクラ部会とのコラボ企画により、Aコープいしき店において、**IPM栽培オクラのPR販売**を実施。

「オクラの浅漬け」の試食も実施。



（PR販売の様子）



（オクラの浅漬け）

【12月6日（土）～7日（日）】

（12月8日は、有機農業の日）

イオンモール鹿児島において、**有機野菜のPR販売**を実施。環境負荷低減の見える化の「みえるらべる」を表示した**白ネギのPR販売**も実施。



（PR販売の様子）



（「みえるらべる」の白ネギ）

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/070727.html>

環境にやさしい農産物のPR販売（2）

【2月7日（土）～8日（日）】

ニシムタスカイマーケット鴨池店において、有機ブロッコリーやIPM栽培ピーマン、K-GAP認証イチゴなどのPR販売を実施。

有機栽培のポンカンの試食も実施。

【2月7日（土）】

山形屋ショッピングプラザ明和店において、有機葉ニンニクやIPM栽培ピーマン、K-GAP認証トマトなどのPR販売を実施。

【2月21日（土）】

Aコープいしき店において、有機白菜やIPM栽培ピーマン、K-GAP認証のトマトやイチゴなどのPR販売を実施。

また、有機生産者による対面販売も実施。



(PR販売の様子)



(ポンカンの試食)



(PR販売の様子)



(K-GAP認証トマト)



(PR販売の様子)



(K-GAPイチゴやIPMピーマン)

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/070727.html>

(参考) 首都圏の店舗での売り場の事例

(慣行栽培と有機JASの農産物の違い (価値) を伝える)



(店頭では、農業者が生産した農産物を積極的にPR)



オーガニック・地産地消等ツアールート

「自然」 × 「産業」 × 「有機食材等」 → 鹿児島島の付加価値向上！

鹿児島県の魅力を、県民、県外や海外からの観光客に披露し、おもてなしのヒントとしていただくため、7つのルートを作成。

ルートのQRコードはこちら



【お問い合わせ先】
九州農政局鹿児島県拠点
電話099-222-5840

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ

[https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/Introduction to the course in the southern Satsuma area.html](https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/Introduction%20to%20the%20course%20in%20the%20southern%20Satsuma%20area.html)

鹿児島県のオーガニック・地産地消等ツアールート (錦江湾一周)

④：森のかぞく 始良店
住所：始良市東新田399-11
メモ：そのやま農園と協力農家の有機野菜、加工品、お弁当やお惣菜を販売するオーガニックショップ 営業時間 10時～17時 定休日：月曜日 ☎0995-55-1685

⑤：蒲生物産館くすくす館
住所：始良市蒲生町上久保2539-1
メモ：有機農産物のほか、お弁当・お惣菜・加工品等を販売 営業時間 9時～18時 定休日：年末年始（12月31日～1月3日） ☎0995-54-3099

⑥：白金酒造株式会社 石蔵ミュージアム
住所：鹿児島県始良市藤元1933
メモ：焼酎の購入や階建ての製造見学可（要予約） ☎0995-67-1496（受付時間 10:00～17:00/水曜定休）

⑦：地球畑荒田店・地球畑カフェ「草原をわたる船」
住所：鹿児島市下新田3-17-1
メモ：（有）かこしま有機生産組合の直営店 荒田店：10:30～19:00 ☎099-812-0668
カフェ：ランチ11時～15時（ラストオーダー14時半） カフェ14時半～16時半（ラストオーダー16時） 定休日 毎週月曜日

モデルコース

- 鹿児島市内
- 桜島フェリー(15分)
- ①道の駅「桜島」火の島めぐみ館
- ②黒群ガーデン壺畑ショップ&レストラン
- ③国分物産館じょうもん市場
- ④森のかぞく始良店
- ⑤蒲生物産館くすくす館
- ⑥：白金酒造株式会社 石蔵ミュージアム
- ⑦地球畑荒田店・地球畑カフェ「草原をわたる船」

③：園分物産館じょうもん市場
住所：鹿児島県鹿児島市国分中央五丁目3番10号
メモ：地元の農産物や農産加工品、郷土のお菓子、弁当、工芸品、雑貨、木や花の苗などを販売 定休日1/1～1/5 ☎0995-45-3322

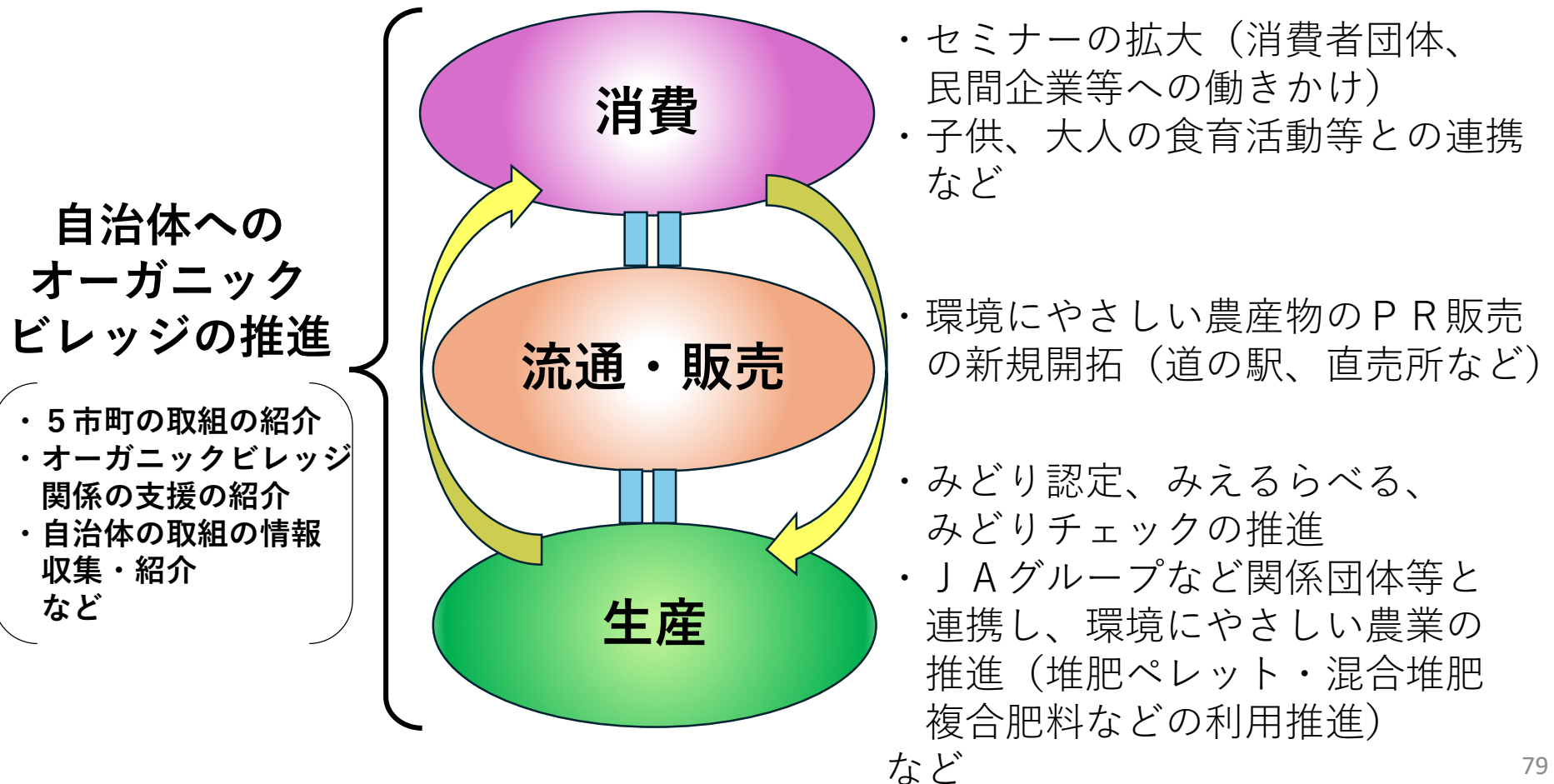
②：上野原縄文の森

②：黒群ガーデン壺畑ショップ&レストラン
住所：霧島市福山町福山3075
メモ：江戸時代から続く伝統製法で造られた炭元にくるすを食用した体にやさしい料理を堪能しめる。「くろぐろす野飯」や「鶴舞澤饅頭」などのお食事、ショップ、見学可能。 休日：12/31～1/1 ☎0995-54-7200
〔情報誌〕 9：00～17：00 〔レストラン〕 10：00～17：00

①：道の駅「桜島」火の島めぐみ館
住所：鹿児島市桜島福山町1722-48
メモ：桜島小みかん、桜島大根など、地元ならではの農産物がいっぱい。 ☎099-245-2011
物産直売所：毎月第3月曜日※祭日の場合翌日
レストラン 毎月第3月曜日※祭日の場合翌日

令和8年度みどりの食料システム戦略の推進 (コンセプト)

- 環境にやさしい農業と地産地消に関心を持ってもらうを増やし、環境に配慮した栽培方式への転換、需要に応じた生産へと繋げる！
(みどりの食料システム戦略のKPIの達成に資する効果的な取組を企画)



農地・農業を次代に引き継いでいくための 地域計画の推進

- ・ 担い手が効率的に営農できるように、農地を集約
- ・ 担い手がみつからない、引き受けられないなどの空白地帯を明確化
- ・ 農地利用上等の課題を明確化



協議の場の様子（喜界町）

- 農業委員会が作成した目標地図の素案を見ながら、
- ・ 現在、どの農地が作付されていて、
 - ・ どの農地が作付されていないのかを確認。
 - ・ 作付されていない農地の所有者は誰か、
 - ・ 今後、誰が作付するのか、後継者はいるのか、
 - ・ 後継者がいない農地は誰が担うのか
- などについて議論。



鹿児島県における市町村別の地域計画策定状況 (令和7年3月末現在)

地域計画策定数	平均農地面積(ha)
660	145

市町村	策定数	市町村	策定数	市町村	策定数	市町村	策定数
鹿児島市	76	日置市	46	長島町	11	宇検村	4
鹿屋市	21	曾於市	18	湧水町	14	瀬戸内町	9
枕崎市	4	霧島市	21	大崎町	24	龍郷町	8
阿久根市	12	始良市	19	東串良町	15	喜界町	9
南九州市	35	いちき串木野市	30	錦江町	15	徳之島町	9
出水市	12	南さつま市	11	南大隅町	11	天城町	4
指宿市	22	志布志市	19	肝付町	10	伊仙町	10
西之表市	10	奄美市	8	中種子町	9	和泊町	21
垂水市	8	三島村	1	南種子町	8	知名町	17
伊佐市	13	十島村	7	屋久島町	6	与論町	3
薩摩川内市	28	さつま町	19	大和村	3		

地域計画の意義（メモ）

- 消費者の皆さんにとっては、生きるために必要な農作物の生産の基礎となる農業現場の情報を知る機会



- 食品業界の皆さんにとっては、自社の事業に必要な原料の調達に関係する情報を知る機会



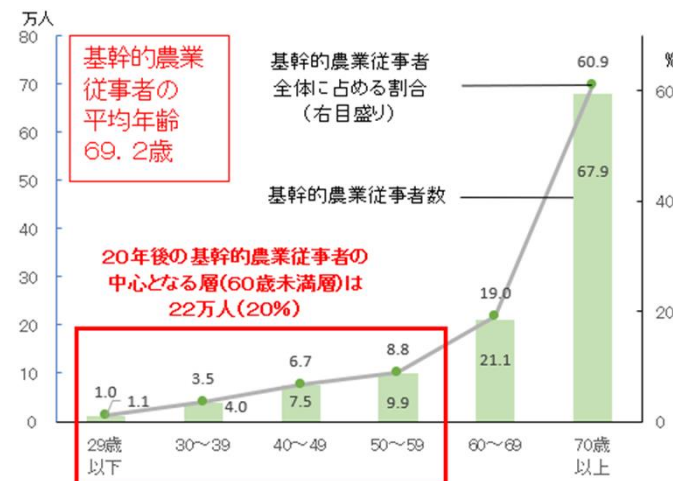
- 農業者の皆さんにとっては、自分の営農を効率化するために必要なこと、自分がリタイアするときの農地の扱い、当該地域の農業上の課題などについて、話し合い整理する機会



○ 農業協同組合などにとっては、農作物の集出荷の計画との関係で、組合員の農地の利用、農作物の栽培方法などについて話題にする機会

○ 自治体にとっては、農業振興を図る上で不可欠な農地の利用、農作物の生産の現状、将来の在り方などについて話題にする、施策に関する情報提供をするなどの機会

○ 国にとっては、食料安全保障、日本農業の持続的な発展などの政策目標を達成するためのベースとなるものであり、地域農業の課題を把握する機会



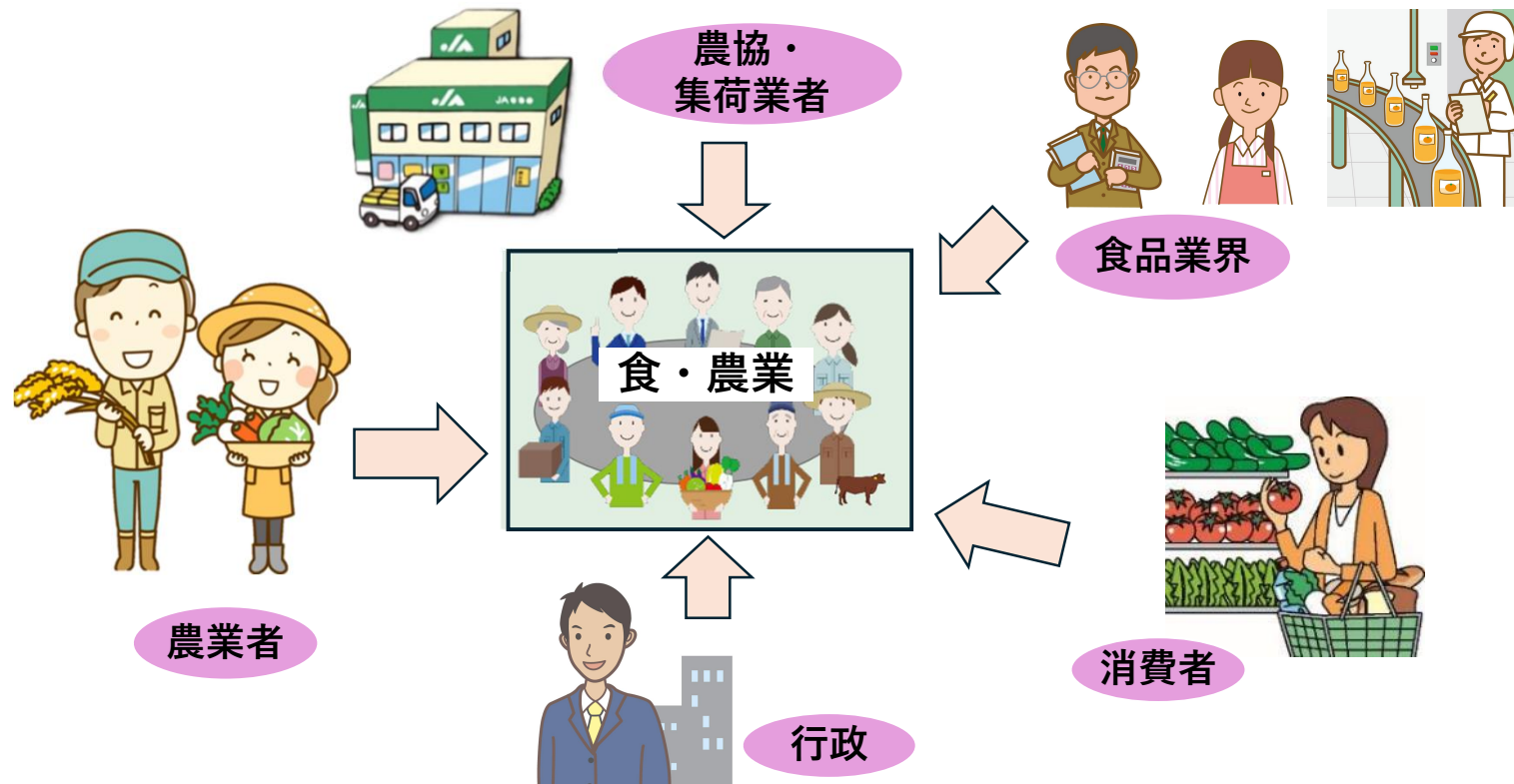


① **地域計画は、毎年、関係者が内容を確認し、必要に応じて情報を更新**（その際、例えば、次のことを話題にして計画に盛り込むことも考えられる。）

- **誰がどの農地を利用しているか？**
→ **農地を集約するとすればどうするか？**（利用調整など）
- **そろそろリタイアを考えている者はいないか？**
→ **その農地をどうするか？**（農地バンクを通じた担い手への集約、農業サービス事業体への作業委託、集落営農の立ち上げ、他産業との協業など）
- **相続未登記の農地はないか？**
→ **誰に伝えて手続きをお願いすればよいか？**（農業委員等へ相談など）
- **農地の利用上の課題はないか？**
→ **農作物の生産、水管理、草刈り、水路清掃、鳥獣被害などの現状はどうか？**
（基盤整備事業（or大区画化等加速化支援事業）等を活用した圃場の大区画化、施設の補修、共同作業の在り方など）
- **農作物の生産体系はこのままでよいか？**
→ **化学肥料等の削減、有機栽培を広げる場合どうするか？**
（ゾーニング、生産組織の立ち上げなど）

② 農業者以外の方にも情報提供し、農業に関心を持ってもらう

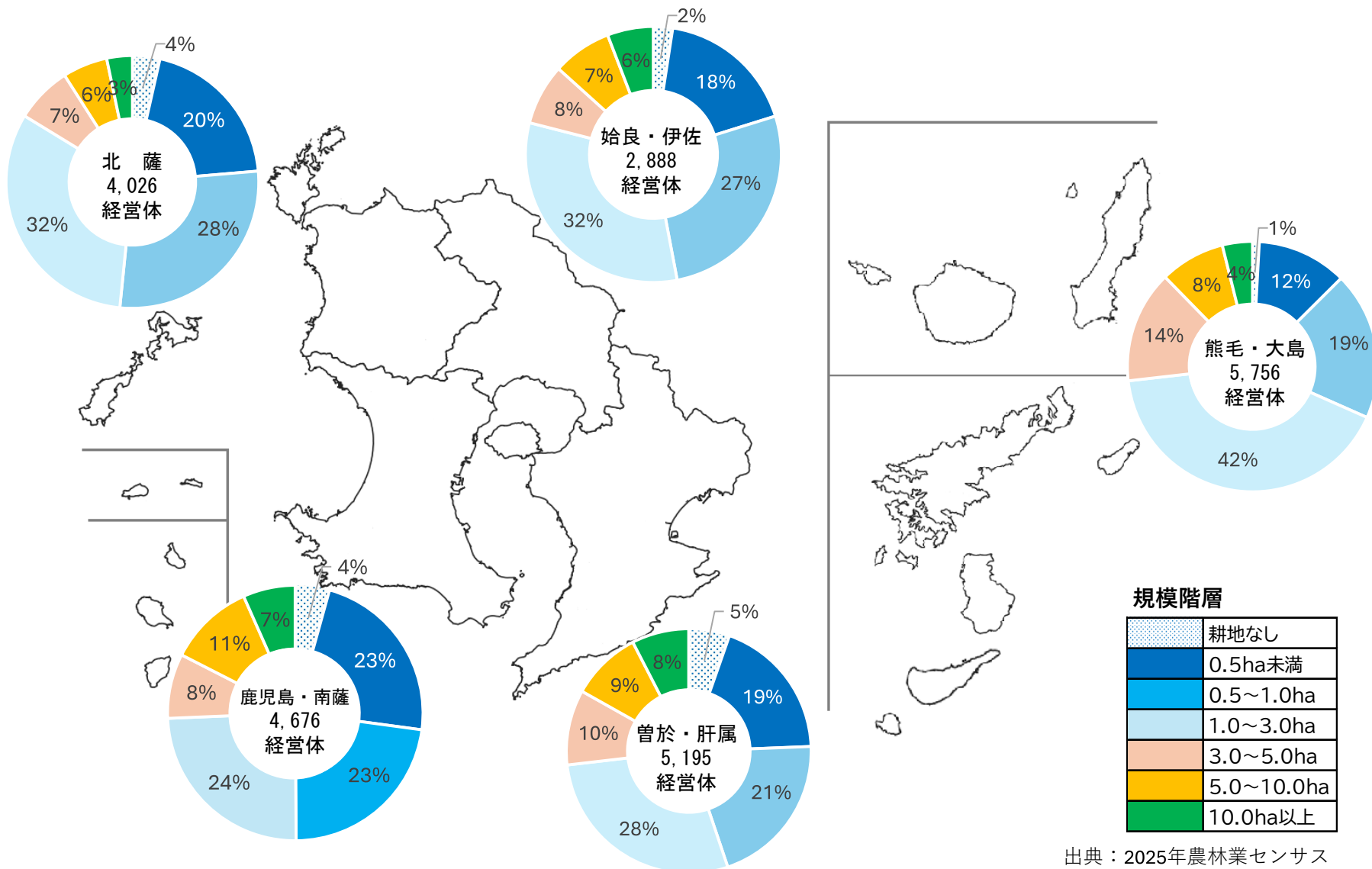
- ・ 地域では、どのような作物が生産されているのか、生産を継続するためにはどのような課題があるのかなどについて、関心を持ってもらう
- ・ 関心の高い方（消費者、取引先など）には声をかけて、農作物の生産、環境美化の共同作業などの取組に参加してもらう



**鹿児島県の農業を、
次代に引き継いでいくために！**

鹿児島県の農業経営体（地域別・作付規模別）

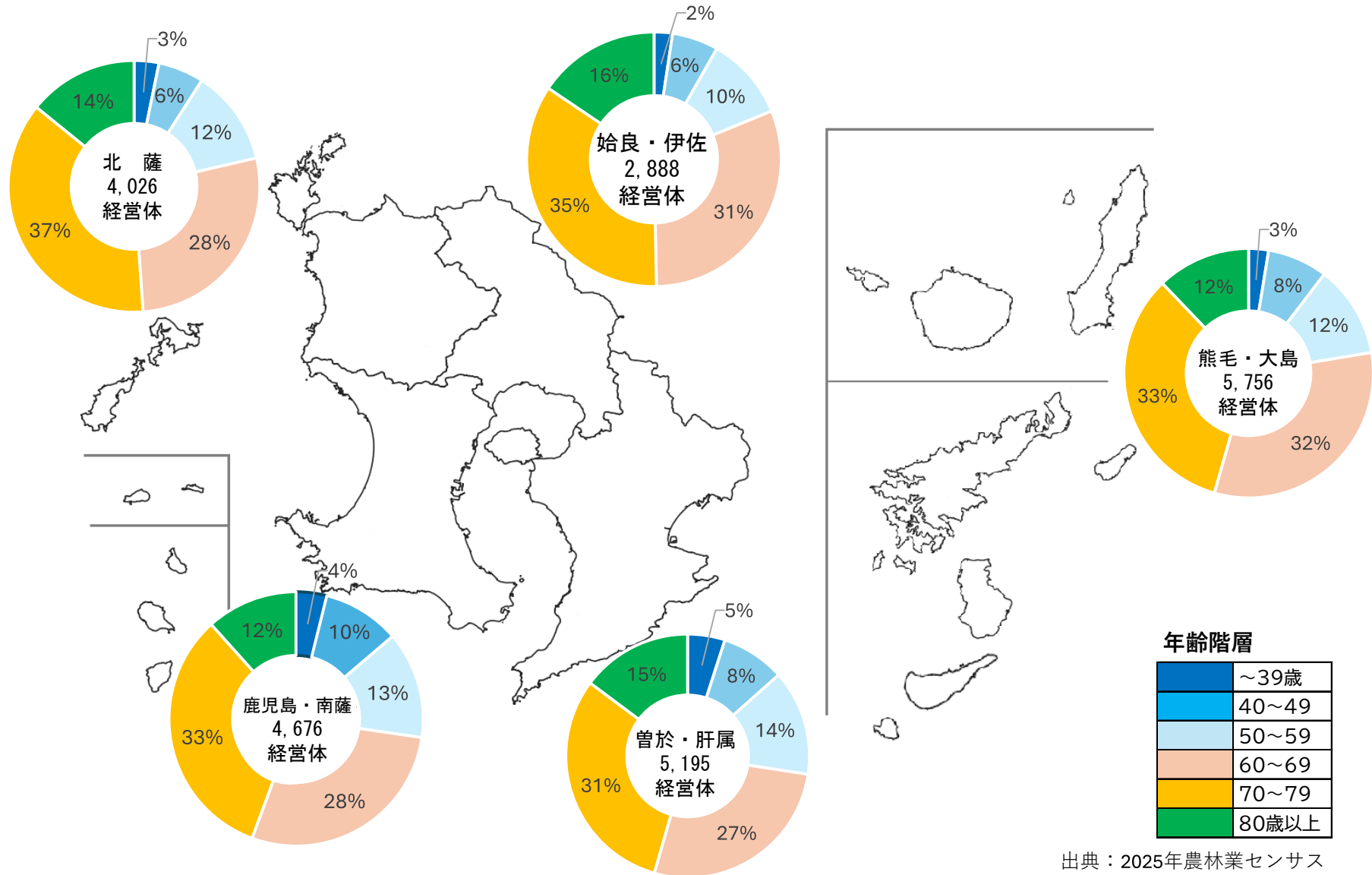
- 1ha未満の小規模経営が、過半



出典：2025年農林業センサス

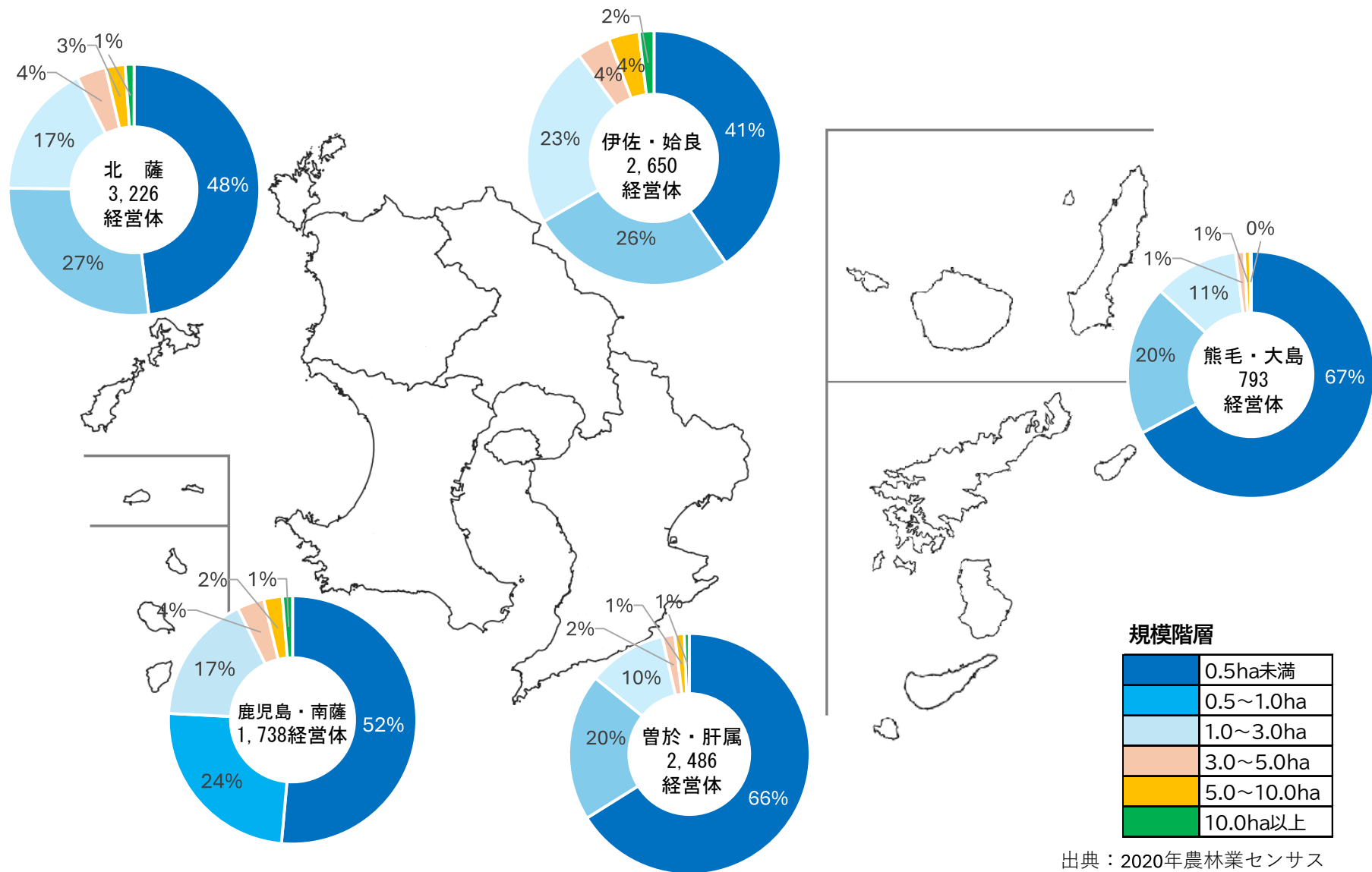
鹿児島県の農業経営体（地域別・年齢構成）

- 60歳以上が、7～8割



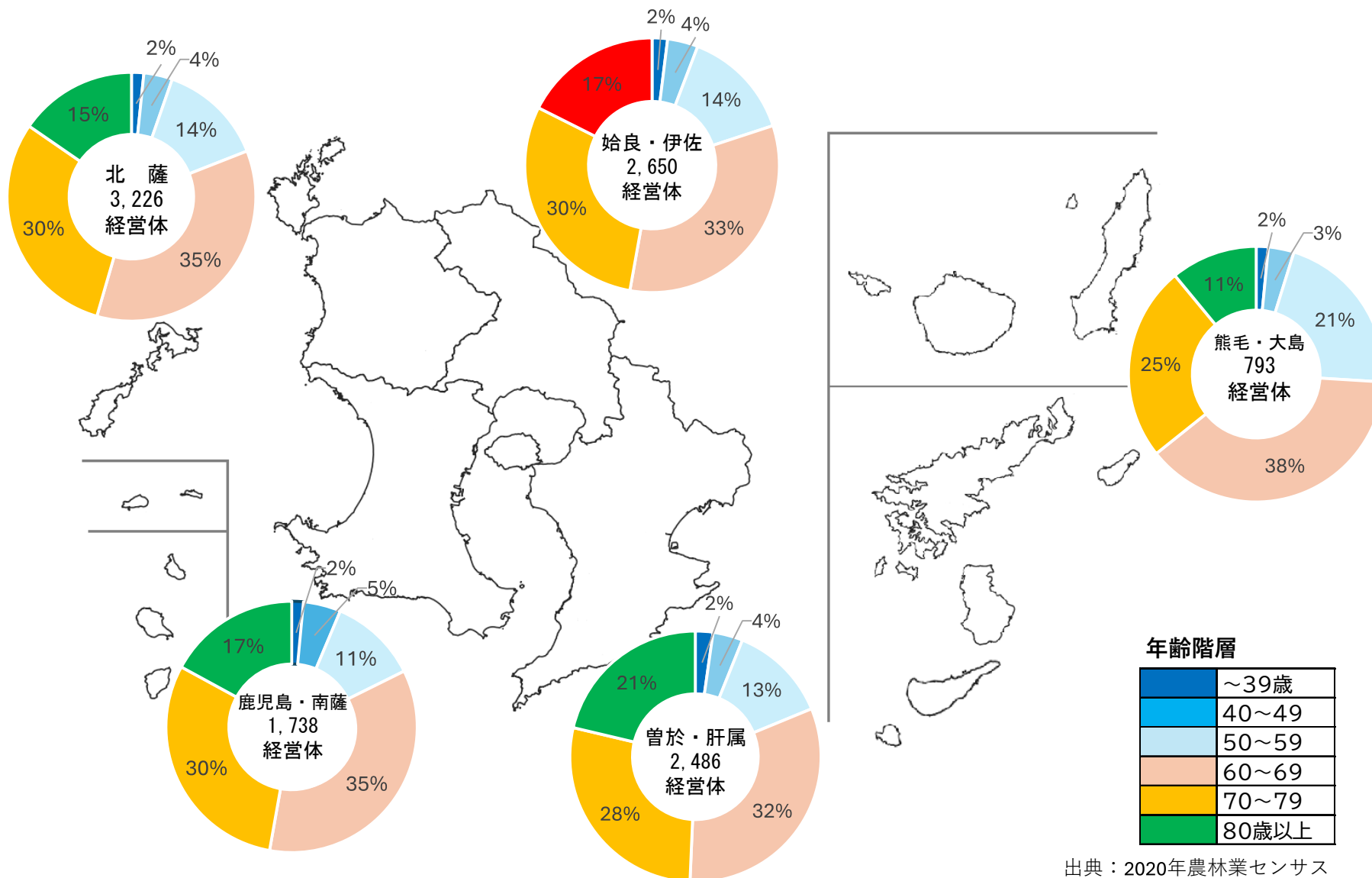
出典：2025年農林業センサス

鹿児島県の水稲作経営体（地域別・作付規模別）



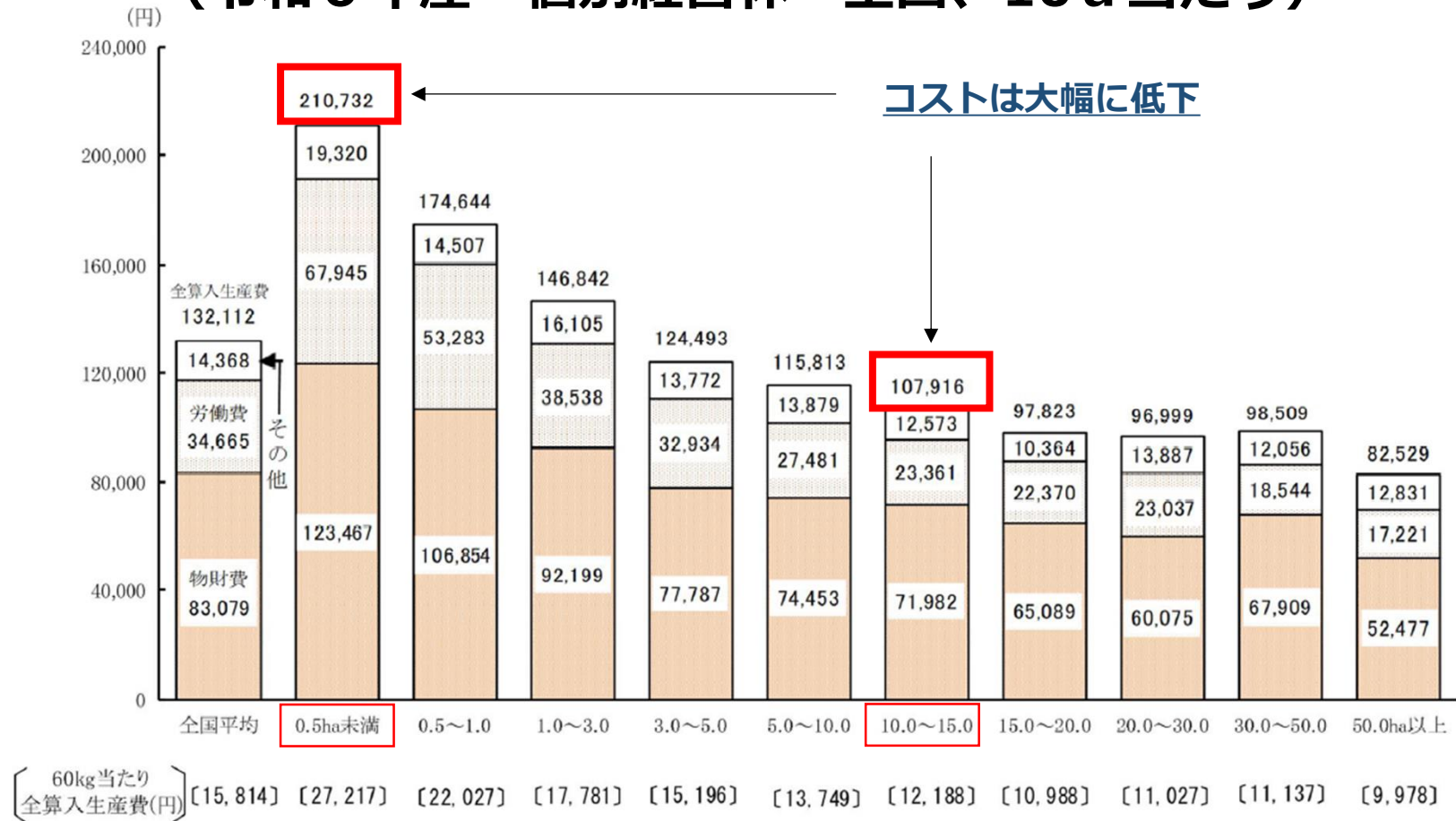
出典：2020年農林業センサス

鹿児島県の水稲作経営体（地域別・年齢構成）



出典：2020年農林業センサス

(参考) 米の作付規模別の全算入生産費 (令和6年産・個別経営体・全国、10a当たり)



※ 小規模経営体も、

- ・ まとまれば、規模が大きくなり、
- ・ 大型機械の共同利用、作業の役割分担などにより、効率的な営農を実現すれば、
- ・ コスト削減ができる

(参考) 稲作の作業の高度化・効率化の変遷



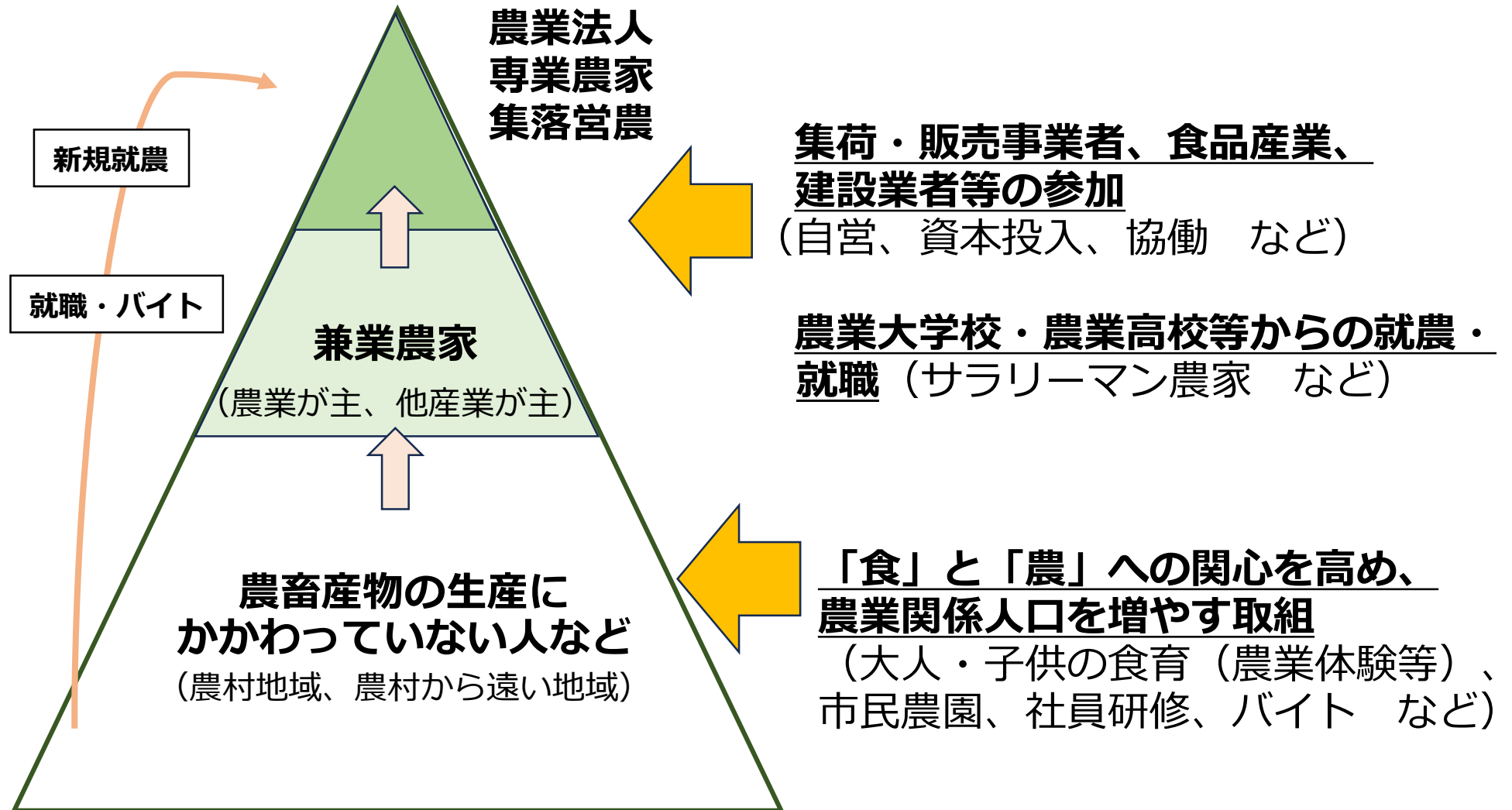
**小規模な高齢農家が
鹿児島県の農業を支えているのが実態。**

10年先のことを考えると・・・

**鹿児島県の農業を継続し、
将来に向けて、
食料を安定供給できるようにするためには、
各地域で、生産体制を整えることが必要！**

食料安全保障の実現 ～ 農畜産物の生産の維持・拡大 ～

- 国民の食料の確保、2次・3次産業の持続性の確保には、農畜産物の生産の継続・拡大が不可欠。農業関連事業者等の農業への参加をはじめ、「食」と「農」に関心を持つ者を増やし、農業関係人口を増加させることが必要。



(参考) 鹿児島県でのスマート農業・農業DX

ドローン

ドローンによる防除・施肥



ドローンによる遮光剤塗布



自動運転

自動走行トラクター



無人自動運転散布車両による防除



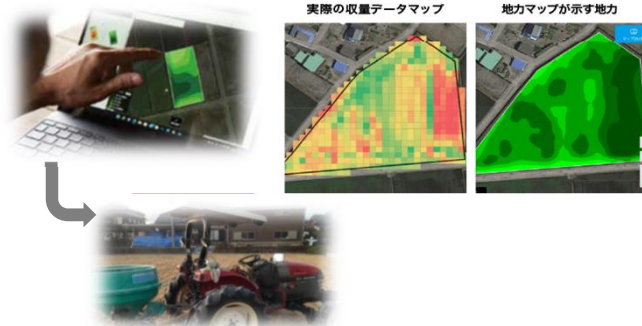
営農支援システム

システムによる作業管理等による営農の効率化



センシング

人工衛星の画像データ等の分析による可変施肥



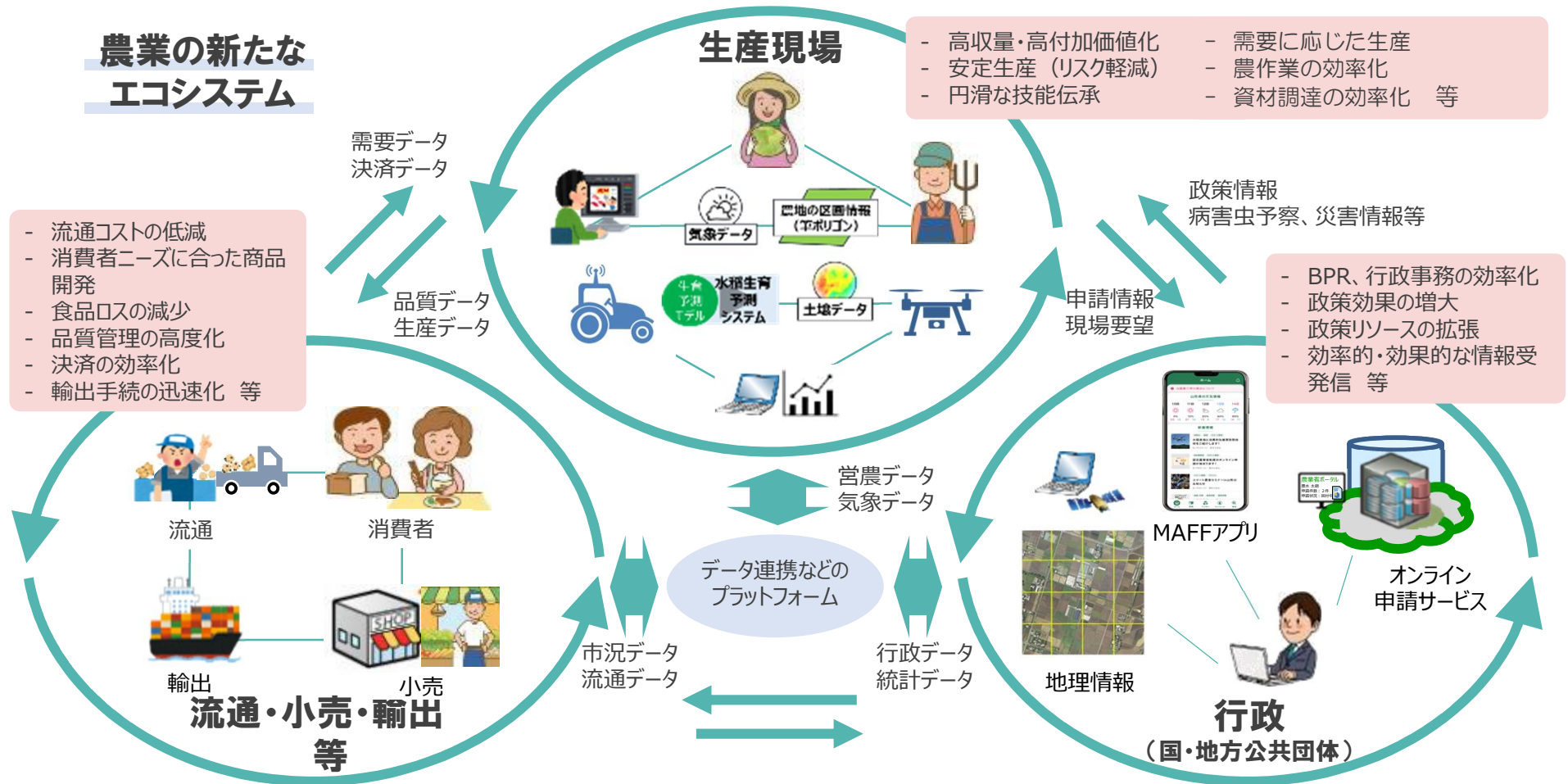
環境制御

気温、CO2、日射量等のデータに基づく栽培管理



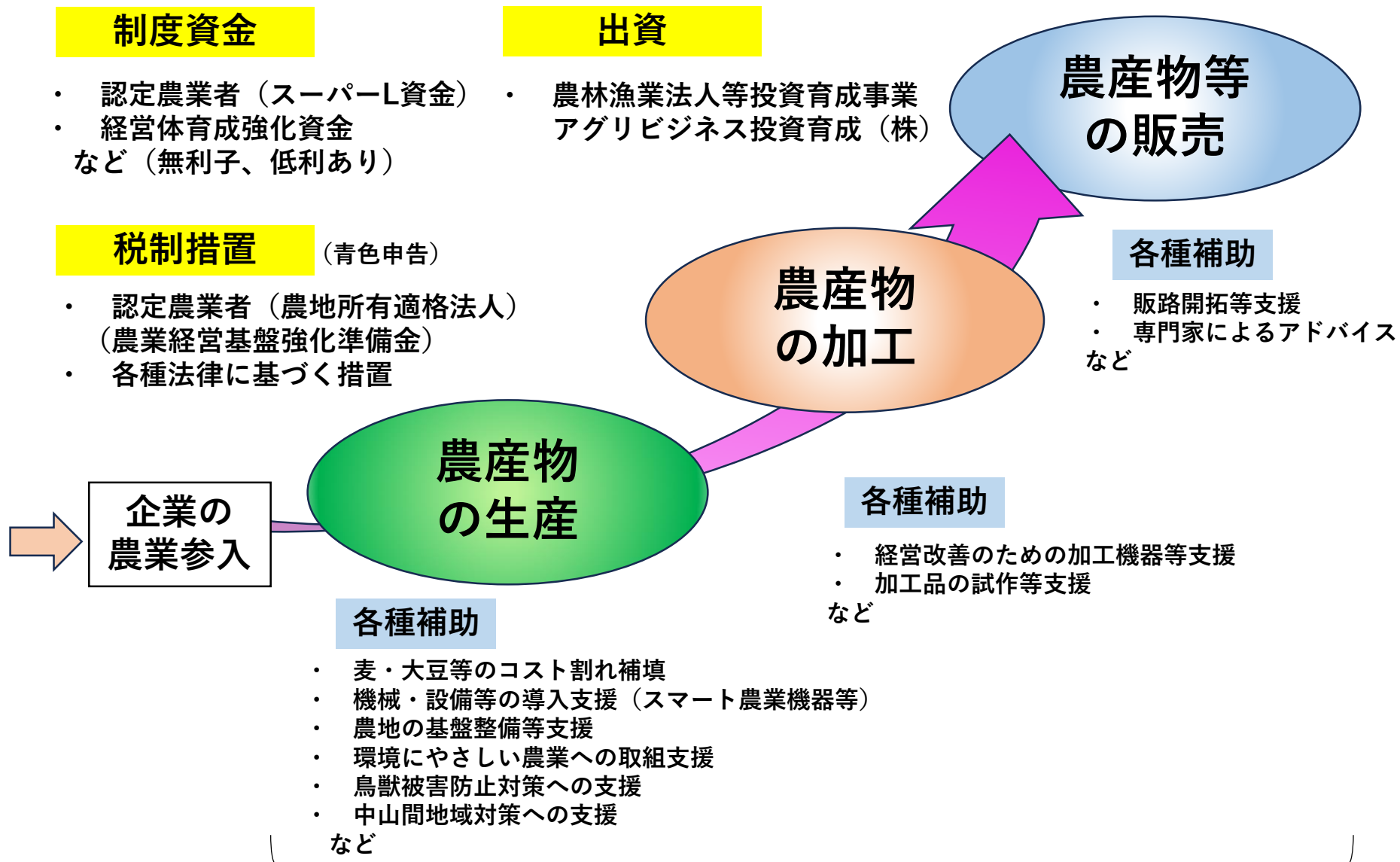
(参考) 農業DXにより実現する農業の未来

- デジタル技術を活用した様々な主体がデータでつながり、
一見矛盾する課題を乗り越えるイノベーションを起こし、消費者ニーズに的確に応える価値を創造・提供できる農業へ。



(2019年6月7日 IT総合戦略本部提出資料 (抜粋、一部時点修正))

農業経営に対する主な政策支援（参入企業も活用可能）



注：R8年度予算をベースに作成

自然災害、価格低下等のリスクへの対応
 収入保険、農業共済、野菜価格安定制度などや、民間損保への加入

(参考) 茶工場を運営するJAが農業参入 (曾於市) ((有) ジェイエイそおアグリサービス)



茶工場を運営するJAが、
原料を安定的に確保できるようにするため、
平成元年に農業に参入

経営面積約45haで、生葉を生産するとともに、
近隣の小規模農家の生葉も集約し工場へ

生葉の生産から加工、販売まで
一貫した経営で、茶産地の継続に貢献

JAそお鹿児島島の
FA茶工場



(参考) 建設会社が農業参入で地域貢献 (始良市) ((有) 村田造園建設)

地域の担い手農家から、手伝ってほしいとの依頼を受けて、令和元年に農業に参入

当初は0.2ha。徐々に農地を引き受け、約16haまで規模拡大 (令和8年)
水稲、麦などを生産

自社生産の小麦などを使用した餃子も製造・販売するなど、農産加工も展開



地域活動にも参画し、
地域農業・農地の維持に寄与

(参考) 建設会社が農業参入で循環型農業 (滋賀県大津市) ((株) 長谷工あんしんデリ)

マンションの住民向けの米を安定的に確保することなどをきっかけに、平成27年に参入
(経営面積約40ha)

米23ha、芋8haなどを生産。個人向け、地元スーパーなどに販売

スマート農業の実践。食品リサイクル堆肥や発酵竹パウダーを使用した環境にやさしい農業で顧客を拡大

干し芋・焼き芋加工、
小学校や幼稚園での食育活動なども展開



(参考) 金融機関が農業関連法人の設立を支援 (日置市) (株) 春一番

農業者の高齢化や耕作放棄地の拡大が課題となっている中で、農業の発展と雇用創出を目指し、鹿児島銀行が倉庫業者、卸売業者、運送業者などと組んで、平成28年に法人の設立を支援。

経営面積は、0.7ha。

パプリカ（当初）、玉ねぎ、かぼちゃ、トマトなどを生産・販売。

卸売業として、県内で生産された、にんじん、かぼちゃなどを、関東や北海道方面のスーパーなどに販売。



(参考) 旅行会社の地域貢献活動 (枕崎市) (ソラシドエア×薩摩酒造×地域)



ソラシドエアの新入社員等と地域住民が協力し、耕作放棄地を再生。

焼酎原料のサツマイモを生産し、それを利用してオリジナルの焼酎を開発・販売。

社員自身が語れる“目的地”を創出

ストーリーのある“選ばれる地酒”づくり



企業と地域の継続的な取組により、関係人口を創出

(参考) 仲卸が生産者と企業の結び付きを推進 (東京都) (株式会社大治)

農業の担い手の確保が課題となっている中で、
2次・3次産業と生産者を結びつける取組
（「千菜一遇 農en」）を、令和4年に開始。

ネット上で、生産者の情報を企業に紹介。

企業が、福利厚生の一環として社員に農業体験
の機会を作るとともに、生産された農産物を買
い取るなどの取組を推進。



せんざいいちぐう
千 菜 一 遇
NOUEN

参加企業のオリジナル商品（例）

(参考) 県内初の食育優良法人 (鹿児島市) (そのやま農園株式会社)

有機野菜の生産・販売をはじめ、弁当、総菜などの加工品の製造・販売も実施。

農林水産省が認定する、
「食育実践優良法人2026」に選ばれる。

年複数回、自社の農園で従業員向けの研修を開き、化学肥料・農薬を使わないこだわりを伝えるなど、食育活動に積極的。



(参考) 環境保全型農業体験学校 (南さつま市) (ありのまま分校)

平成27年度開校

委託先 MOA自然農法文化事業団

参加者 市内外の自然農法に興味のある者 (子供も参加)

卒業生 10年間で約400名

授業内容 土づくり、植付け、栽培、収穫、販売、加工など



植付



収穫



加工 (豆腐作り)

収穫祭

**鹿児島県では、
県庁及び各地域振興局・支庁に相談窓口を設けて、
企業等の農業参入に関する相談を受け付けています。**

<相談窓口で取り扱う内容>

- ・ 農業への参入方法、参入時の留意点
- ・ 地域の農業の概要、振興作目の情報
- ・ 国、県、市町村の主な支援策 など

【県庁の相談窓口】

農政部経営技術課

電話：099-286-3152

Eメール：keieitai@pref.kagoshima.lg.jp



農林水産省九州農政局鹿児島県拠点では SNSの公開ページを開設しています！

農政の動き、鹿児島県拠点の活動レポートなど、
タイムリーに配信いたします！

Facebook



九州農政局鹿児島県拠点



リンク先

→<https://www.facebook.com/kagoshimakenkyoten>



Instagram



リンク先

→https://www.instagram.com/kagoshima_info2024/



X(エックス)



リンク先

→https://x.com/kyushu_kago



ご清聴、ありがとうございました。

資料に関するお問い合わせは、
九州農政局鹿児島県拠点にお願いします。

連絡先：099(222)5840

E-mail：kagoshima_sanjikan@maff.go.jp

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点のホームページ
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/index.html>



鹿児島県拠点 HP↓